

『人の形と魔の形（前編）』情報まとめ



概要

GS第19話 第二作戦「人の形と妖魔の形」

依頼人：灰色のジェイス

推奨レベル：5-7(三次職、転生職はレベル3でも参加可)

報酬：一人50000セレン (参加報酬)

舞台：ゴブリン帝国首都「マルス」

必須なスキル、装備：ファイター、レンジャー、シーフ、ソーサラー、プリースト、スチームパンカ、アルケミスト、生贄、その他不明。要情報収集。

概要：

ゴブリン帝国の首都マルスで、王城が丸ごと異界に飲み込まれるという事件が起こった。

城の中のゴブリンが次々と変異し、場内はとんでもないことになっているようだ。

すでにゴブリン帝国の中でも名うての探索者が数々犠牲になっている。

帝国城には、現在王弟マゼンダも閉じ込められているらしい。

鎖国をこれまで続けていたゴブリン帝国だが、城を中心にマルスの異界化が進行している今、そうも言っていられなくなったようだ。

外部から異界探索を生業とする者を集めるとお触れがあった。

俺は先に異界に潜るつもりだが、さすがに今回ばかりは危ういかもしれん。

だからホオヅキの探索組も参加しないか？

どちらにせよ魔鉱石が手に入らないと話にならん。

ゴブリン帝国に恩を売るチャンスなんじゃあ、ないかね？

達成目標：首都マルス王城の解放

努力目標：王弟マゼンダの救出

○特記事項

1. 異界探索になる為、通常の常識が通用しない場合がある。
2. 物理法則などもおかしくなっている場合がある。気を付ける事。
3. これは通常のダンジョンハック……ではない。
4. 慎重に行動せよ。

注意点

エリザベートの手記の情報は全員知っているものとして良い。

基本的に分散行動は不可。偵察や留守番に人を出すのは有り。

ゴブリン紙幣の残りは備考欄で管理を行うこと。

ホオヅキ。出発の前に

深海の蒼光 9/21 21:42~22:34

今回の目的はゴブリン帝国首都マルスへの潜入、可能なら首都マルスの王城の解放を行うこと。

基本的にはダンジョンハック。

事前に魔法王国マレーンに収監中のゴブリン帝国前皇帝クリムゾンアイに接見する許可をマレーン軍元帥セピアより得ていたが、現段階でクリムゾンアイに接見する理由はない。

サブミッションとして、ゴブリン帝国前皇帝クリムゾンアイから現在の皇帝マゼンダ（現在行方不明）への手紙を託された。手紙をマゼンダに渡す必要がある。手紙はセフィが所持することに。

今回はホオヅキより与えられた正式ミッションのため、ホオヅキの誇る設備・艦艇が使用可能。

ビッグセブンからゴブリン帝国まで快速艇キサラギで三日間、飛行艇カガチだと一日の行程。（どちらでもVAPの積載は可能）

- ・快速艇キサラギは海上を移動し速度は遅いが小型で隠しやすい利点がある。
- ・飛行艇カガチは空を飛び、速度は速いが巨大で目立ちやすい。

相談の上でゴブリン帝国への移動には快速艇キサラギを使用することとなり、書類を提出し借り受けることとした。（VAPも積載）

キサラギは女海賊Aとモブ船員でホオヅキの経費で動かしてくれるが、食事は各自で用意することになり、費用をハンスが立て替えた。冒険者の行動中は、キサラギは首都マルスの港で停泊。

現状、ゴブリン帝国についての情報を持っているのは先行してマルスに行ったホワイトとユラ。前段作戦『海上楼閣の財宝』でホオヅキの冒険者によって救出された彼女たちは協力してくれそうなので、マルスで接触することとした。

首都マルスでは人間社会の貨幣は使用できず、ゴブリン帝国の貨幣はオラトリア商会でしか用意できないため、オラトリア商会でゴブリン帝国で流通する紙幣と両替を行った。両替状況は後ろの方に別記。

ゴブリン紙幣は特殊な印刷技術を使用しており、太陽にかざすとクリムゾンアイの肖像が浮かぶようになっていて、人間社会では再現できない。偽札を使うと死刑になる。

ホエールハンティングクルーズ	深海の蒼光 9/21 22:37~22:54
<p>ゴブリン帝国に向けて出航。初日と二日目にミンククジラと遭遇し、それぞれが釣りスキルを活用して二頭のミンククジラを収獲した。道中はクジラ料理（鯨のお刺身、コロの煮つけ、鯨汁、鯨のステーキ、鯨のレバ刺しetc.）で腹を満たすことができた。魚と牛肉の中間のような味がする。しかし、ミンククジラを二頭曳航するため、キサragiの速力が低下し、予定よりも一日遅れて首都マルスの港に到着した。ビッグセブン制圧ができたためか海賊も見当たらず安全な航海だった。</p> <p>なお、この世界には反捕鯨団体はいないらしい。</p>	

首都マルスの港	深海の蒼光 9/21 22:54~23:41			
<p>首都マルスに到着。女海賊Aは捕獲したクジラの換金のため交易所に行った。取引は一日仕事となるため、クジラを換金した資金を受け取るには、次の日にもう一度キサragiに戻る必要がある。</p> <p>まずは目標として以下を設定。</p>				
地図確保	先行上陸した冒険者探し	拠点確保	情報収集	(シーフギルド)
<p>セフィの連れている天使フォルトゥナが上空を飛行して三時間で地図を確保した。内容はセフィとハンスが写真記憶。</p> <p>三箇所を確認された異界（に飲み込まれたと推測される部分）は、うっすらと透けて見える黒い水のような物体でドーム状に覆われている。遠目からは水で満たされた水槽の内部のような見え方。</p> <p>港に入るといくつか船が停泊しているのが見える。姿は見えないが、他の冒険者が何グループか来ているようだ。</p> <p>ゴブリンの船乗りや交易所の荷運びなどが往来している。会話は大体ゴブリン語（蛮族共通語）。</p>				

ゴブリンの船乗り	深海の蒼光 9/21 23:42~23:57			
<p>セフィがゴブリンの船乗りと会話をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外からの冒険者は中央の広場にある大きな建物（ホテル）に宿泊している。 ・異界がなぜ発生したのかは分からないが、これ以上被害は増えないようなので戦々恐々としながら生活をしている。 ・三箇所の異界のうち王城以外の二つは、劇場と芸術家が集まるストリートらしい。 ・週に一度の興業が打てないと劇団が嘆いていた。（劇場が飲み込まれたからか？）週に一度の興業がなくなった時期と異界が広がらなくなった時期は一致する。 ・外からの冒険者は人間以外だとエルフもいた。とにかくゴブリン以外。最初は市民もおっかなびっくりだったが、数が多いのでもう慣れた。 ・人間の冒険者達が来始めたのは二ヶ月前だが、最近見かけない。（異界に行ったきり戻ってこない?） ・クリムゾンアイがいなくなってから、マルスのゴブリンたちは自堕落になっていた。 ・徒歩で15分ほどかけて教えてもらった宿泊所に移動した。 				

HOTEL	深海の蒼光 9/21 23:57~9/22 1:27			
<p>宿泊所は十階建ての立派なホテルのような外観。セレン帝国のホテルよりも洗練された様式。正面玄関はガラス張りの回転扉。入り口には執事姿のゴブリンが立っている。物腰はとても穏やかで文化的。</p> <p>フロントでホテルの規則を説明される。共通語と北方語とゴブリン語（蛮族共通語）のトリリンガル。</p>				

ホテルの規則

宿泊料金は前払い。宿泊中は部屋を留守にする場合でもフロントに鍵を預ければ荷物を部屋に置いておける。

ダブルの部屋が一泊50ゴブ、シングルは部屋は一泊30ゴブ。フロントで必要な部屋数を申告すれば宿泊できる。

チェックアウト時は手荷物を部屋から全て搬出して、部屋は空にすること。

宿泊を延長する場合は、都度申告して前払いをすること。

予定の日数を過ぎても客が戻らない場合は、一旦ホテルが荷物を接收する。

ホテルが荷物を預かる期間は一週間まで。それを過ぎれば荷物を処分する。

地下一階に大浴場がある。混浴で入浴用の水着はフロントで貸し出ししている。

食事は一階奥のレストランで摂る。バイキング方式。食費は宿泊費に含まれている。部屋にチケットが置いてあるのでレストランで係員に渡すこと。

シングルは五階、ダブルの部屋は七階にある。移動にはエレベータを使用。

執事とフロントにゴブリン帝国について話を聞いた。自分に厳しく他人に厳しく奔放は毛嫌いする国民性のようだ、礼儀正しく生真面目に振る舞う限りは、一般的なゴブリン帝国の臣民は、非常に紳士的に好意的に接してくれるようだ。だらしないと嫌われそう。ロビーにはゴブリンの宿泊客がいるが人間の姿は見当たらない。

執事（40歳）の話

前皇帝クリムゾンアイが国民に無償で教育したためほとんどの国民は共通語と北方語も話することができる。（紙幣が流通しているので読み書きも大丈夫そう？）

大浴場に入る際に不逞の輩が出るかもしれないが、ゴブリン帝国の臣民はクリムゾンアイの教えに従い本来は質実剛健で勤勉なはず。クリムゾンアイは厳しすぎる人物だったが、彼がいればゴブリン帝国臣民は勤勉でいられたはず。

現皇帝マゼンダは悪い人物ではないが、芸術を愛し、ゴブリン帝国の臣民は生真面目すぎるから、もっと自由に生きるべきだと、娯楽や奔放な生き方を推奨し、芸術や劇団への投資を行った。現在は王城ごと異界の中で安否不明。

クリムゾンアイを奪還するという話は出たようだが、クリムゾンアイに押さえつけられていた一部の兵士をマゼンダが扇動して新政権を打ち立ててから立ち消えになった。臣民は組織に忠実なので勝手な行動はできない。

一部の暴走した軍部が剣王国の港を接收し、そこから剣王国を乗っ取ってクリムゾンアイの救出に向かおうとしたが、その後音沙汰はない。（準GS17.1話『武器横流し』のことと思われる。アリーヤがその場にいたはず。ただし、その時剣王国にいたダークエルフ（？）のような『褐色の男』に率いられたゴブリン帝国の兵士たちは追撃してきたヘラを殺した後に悠々と撤退したはず）

『非常時ではありますが、非常時にかまけて目の前のことをおろそかにしてはいけません。臣民として帝国に忠誠を誓うならば、何故帝国を信頼せず目の前のことを行わないのか』というのはクリムゾンアイの教え。

（執事は）帝国を信頼し目の前の仕事を粛々とこなし、クリムゾンアイの帰還を今でも待っている。

クリムゾンアイは25年前にゴブリン帝国を建国し、理知を知らぬ獣のようだったゴブリンたちに文化と文明を与え、（ゴブリン帝国の臣民の主観で）ゴブリンがゴブリンらしくあるべき姿で生きられるようになった。年配のゴブリンたちはみんなクリムゾンアイに感謝をしている。それ故にクリムゾンアイこそが年配のゴブリンにとっての道標である。

クリムゾンアイがいた頃は、演劇でも節度を守った演目や英雄譚などをモチーフとした演目が上演されていたが、最近（クリムゾンアイが戻らなくなってから）は殺し合いやストリップ、卑猥な歌劇などやりたい放題だった。臣民の墮落が止まったという点では異界に飲まれて良かったかもしれない。

マゼンダは、クリムゾンアイへの反発として、劇場の卑猥な出し物を奨励はしなかったが黙認していた。

王城と劇場の他にもう一箇所異界に飲み込まれたところは、『トキワソー』と名付けられた、働きもせず昼から酒を飲んで地に足のつかない能書きを垂れていた夢想家の集団が溜まっている場所だった。

クリムゾンアイの言葉を守り勤勉に生きている者は、誰も化け物になっていない。（執事はこれを指して『寄生虫に犯される』と表現した）

（執事の主観で）『寄生虫』は欲に飲まれたものへの天罰ではないか。だから、クリムゾンアイは勤勉で質実剛健に生きるように戒めたのではないか。

寄生虫に犯されると背中が割れて中から妙な化け物が出てくる。警邏をしている兵士が化け物を見つけ次第退治しているので大事には至っていないが、殉職者が多いため兵士たちの生き残りも最近では少なく、一般臣民も覚悟しなければならない。

異界が出現したのは突然のことだった。化け物について客から聞いたものを説明してもらった。(後述)

実際に化け物を見たのは一度きり。二度と見たくない。

異界には一応入ることは可能だが、生きて戻ってきたのはホワイトとユラのみ。彼女たちは展望ラウンジで項垂れており、ホオヅキの名前でチェックインする者がいたら教えてほしいと言われている。

そこで、執事に展望ラウンジに案内してもらい、ホワイトとユラと接触することになった。

フロントの話

クリムゾンアイは異界の出現について分かりやすい対処は用意していなかったが、今にして思えば、外征(赤竜皇帝ヴォルケイノの起こした戦役への参戦のことと思われる)のときに『我らがゴブリンの閉塞の打開のために』と言っていたのが、今回異界が出現したような事態を予期してのことだったかもしれない。

クリムゾンアイが外征を口にしたのは帝国内で一度『件の化け物』が出現してからだった。国一番のトップスターだったフィオレが舞台上で突然化け物になった事件で、観客と舞台上に上がっていた数名が犠牲となった。

化け物について

妙な歌を歌う巨大な顔の群生体

顔の横に写真がついて走り回る気持ち悪い化け物

耳を巨大にして飛び回る巨大な足首

毎回形状が違い、同じものはいない。

ゴブリン帝国首都マルス地図(大規模なためいつもと縮尺が違う)



時計塔最高峰と深淵からの帰還者

深海の蒼光 9/22 21:14~22:02

ホワイトとユラと接触するためにエレベータで十階の展望ラウンジに移動。

エレベータは魔法王国の技術。セレンの高級建築物にも一部使われている。このホテルには三基のエレベータが設置してある。十階には大きな展望室と土産物屋とロビーがあり、**宿泊客が寛いでいる。その中にホワイトとユラの姿があった。**

遅い到着に文句を言われながら、状況を説明してもらう。

- ・ホワイトとユラは異界攻略に挑むジェイスに戦力外通告を受け置いてきぼりを食らい、異界攻略が詰んでいる。
- ・異界の中は全く常識が通用しない空間。入り込んできた人間を取り込み、同化し、連れ去り、罠にかけるなど様々な手段で進入者を殺しにかかる。重力異常や時間の流れがおかしい箇所まである。
- ・ジェイス以外に異界に進入した冒険者たちも世界有数の冒険者達（『ガチ勢』と呼称）で、生き残っている者たちも少なくないらしい。
- ・ガチ勢やジェイスたちは半端な冒険者が参加しないように情報を暗号でやり取りしている。暗号さえ解ければホワイトやユラでも攻略は可能と見積もっている。

・暗号はゴブリン帝国の秘密の暗号らしい。見せてもらうとこんな内容。



- ・ゴブリン帝国の兵士や市民に見てもらったが、誰も読めなかった。
- ・ホワイトとユラはこれらの暗号で書かれた手紙や通信文などを探したが見つからなかった。暗号はバベルでは解読できない。
- ・ジェイスたちガチ勢が現在挑んでいるのは王城の異界。
- ・異界の中はポータルで移動するようだ。

マレーンに収監されているクリムゾンアイなら暗号を読めるかもしれない。セフィとハンスはマレーンの軍にコネが有り、コレットは事前にセピア元帥からクリムゾンアイとの接見の許可をもらっている。ユラは部外者でホワイトはマレーンとは仲が悪いらしい。そこで、マレーンに行きたいとユラから頼まれる一行。

快速艇キサラギでマレーンに移動すると片道で4週間ほど必要となるが、飛行艇カガチを使えば片道3日ほどでマレーンに到着可能。

ここでクリムゾンアイの手紙の表書きを確認するセフィ。そこに書かれていた文字はこんな内容。



一行は暗号文書を求めて、異界に入ったきりで帰っていない宿泊客（ガチ勢）の処分された荷物から探すことにした。荷物はクローゼットでまだ預けられている。執事に協力を求めホワイトとユラにもついてきてもらって、ガチ勢の残した情報を探しにクローゼットに移動した。

残された手荷物

深海の蒼光 9/22 22:02~23:15

一行はクローゼットで残された荷物を漁り始めた。

残されていたのは、ダンジョンハックではとりあえず使わない、余分な食料・キャンプ用品・日記帳その他、お土産品・重い鎧など。

調べてみると、**気になることが書いてあるメモ帳が見つかった。**

メモ帳の内容

エントランスへの戻り方：→↓ B・B・13（絶対に暗記すること）

光の窓：←↓→ A 2 2 3 注意：窓の方は絶対に見てはいけない。

暗号が解読できればもう少しいろいろわかりそうなんだが、とりあえずエントランスに戻れば食料などは補給できることが分かったので、荷物は減らしてもう一回アタックしてみよう。

多少情報は増えたが、**ホワイトが暗号解読のキーを見出すまでには至らなかった。**そこで、時間をかけて日記帳も読み込むこととなった。夕方までかけて情報を整理すると以下ようになった。

整理された攻略情報

1. 現在、立ち入りが許されているのは王城内の異界のみで、他の二つの異界については立ち入りが禁止されている。したがって攻略されているのは王城内の異界だけ。多分他の二つの異界に立ち入ると二度と戻ってこれない。
2. 王城内の異界はエントランスまでは現状、通常の様子を保っており、そこまでは危険はなさそう。
3. 王城内へ入るためにはエレベーターに乗る必要がある。このエレベーターは特別性で、本来は王城内の好きなフロアに移動できるポータル式のものだった。
4. エレベーターは通常のものとは違い、二つのレバーの方向と文字盤、そして数字キーで移動する。
5. うまく王弟（マゼンダ）殿下のいる部屋のコマンドを見つけることが出来れば王弟殿下を助けられるかもしれない。
6. ただし、どのフロアに王弟殿下がいるか分からないので、一応でも探索する必要がある。
7. 攻略ガチ勢の連中は大分奥の方まで攻略できているようだが、たまにエレベーターで会うことしかできない。
8. フロアのどこかに、別のフロアのコマンドが書かれている紙が落ちているらしい。あたりが出るまで探索は続く。
9. たまにエレベーターガールが居ることがあるらしい。
10. 【多分最重要】既にガチ勢の人々が入った階層には、その階で致命的になりそうな情報が壁などに掛かっている場合がある。読めれば致命的な危険を回避できる。但し暗号で書かれているので読むことができない。これは危険を知った中級以下の冒険者に攻略不可能を悟らせて帰らせる狙いがあるようだ。

ホワイトとユラの見解

ハックする人間によって、攻略する部屋の順番が違っている場合がある。そのため、ガチ勢が既に攻略した部屋には次の部屋に進むための（エレベータにする）コマンドなどの情報が暗号でどこかに書かれている。

いきなり未攻略の部屋に行き当たるリスクも有る。

異界攻略のためには暗号文書を読める人物が必要となる。そのため、マレーンの地下牢に囚われているクリムゾンアイを連れてくることで攻略ができそう。

クリムゾンアイの替え玉に別のゴブリンを仕立て上げるという案が出た。

その場にいる執事に今もクリムゾンアイを救出したいゴブリンはいるかを確認した。

ゴブリン帝国臣民ならみんなその思いはあるが『寄生虫』を抑えるために軍は手一杯で人は出せず、クリムゾンアイから与えられた仕事を放棄してはならないと言われている。昼間から酒を飲んでいるような者なら話は別だが。という答えだった。そのうえで、執事からクリムゾンアイを救出してくれるようにと頼み込まれた。

ジェイスが消息を絶って40日となり余裕のなくなったホワイトとユラから、（マレーンから重犯罪者とされる可能性が高いため）クリムゾンアイを救出するなら身元がばれないように気をつけるようにと忠告されて、便利装備を貰った。

便利装備

バブルガム	使い捨てのデコイ。ガムを噛んだ人物にそっくりな動く人形（人工生命体）を作り出すことができる。ただし、半日ほどしかもたない。4枚貰った。
輝きの鍵	外見は古びたボロっちい鍵だが、どんな鍵でも三回まで開くことができる。
隠れ蓑の複製品	外見はボロ布だが、かぶることで三回まで完全に隠れられる。ただし、動いているのがばれたら見つかってしまう。

マレーンで事が露見すれば最低でも指名手配は免れない。少し話し合っって以下のような話が出た。

- ・ クリムゾンアイに対しては事情を説明して正面から頼み込むしかない。
- ・ 変装をしていく。リメイカーなどの魔術も含む。
- ・ 偽装委任状を用意する。
- ・ 面会許可を受けたコレットとコネを使う場合は変装できない。
- ・ これはホオヅキの正式ミッションなので、マレーンに行く前にアルテミスやエリザベートに事情を説明する。

これ以上の情報は得られないと判断した一行は食事と風呂に行くこととなった。

モロ見え絶世アイドル湯けむりヴォーカル対決

深海の蒼光 9/22 23:16~9/23 0:10

一行は食べ放題の夕食をまったりと食べた。カモのロースト、鶏肉のクリームソース、焼き鳥、羊のケバブ、羊のステーキなど、肉料理が豊富。

その後で大浴場へと向かった。ルクレシア以外は水着を着て、**ルクレシアだけは裸で入浴。**

案の定(?)、**ガタイの良いゴブリンがルクレシアの方に寄ってきてナンパを開始。**

ガタイの良いゴブリンはゴブンザという名前で偉大なる詩人を自称。rapperでトキワソーの住民だったらしい。**トキワソーの住民の大半は異界に飲み込まれてしまった**がゴブンザは逃げることに成功したようだ。

いきなり歌い出したゴブンザのラップはルクレシアの採点では18/100点。

自信満々のゴブンザに対してルクレシアが一条もまとわぬ姿でディーヴァの歌唱力を見せつけた。ショックを受けたゴブンザ。

いつの間にか**風呂に入っていたゴブリンたちが寄ってきてルクレシアに喝采を贈り、ゴブンザに帰れコールを始めた。**

その時異変が起きた。ゴブンザの背中がぱっくりと割れて中から巨大な顔の怪物が出現。

パニックに陥って軽度の発狂状態になった大浴場の客たちとアロンザ。なお、レベルは奪われなかった。

ルクレシアはパニックにならなかった観客から**風呂桶を貸してもらい、それを太鼓の代わりにして『何でも聞くよ!』を熱唱。パニックになっていた全員が復帰した。**ルクレシアが避難を呼びかけ、一般客たちは大浴場から避難した。

コレットが寄生虫に取り憑かれたゴブンザを判別した。

今、寄生虫(ゴブンザ)がいるのはタイルの上。

寄生虫(ゴブンザ) ………Lv9 HP40/40 物理防御15 魔法抵抗16 回避19 敏捷10 精神系無効 即死無効 上手な歌に弱い(達成13以上の歌に対して抵抗-4)

オデノウダヲキケエエエ

深海の蒼光 9/23 21:07~21:54

寄生虫との初期距離は2m。すぐに戦闘が始まった。本来、このモンスターにはアルカナハントが適用されるはずだが、今回は**マンハントが適用された。**天井の高さは4m。大規模な魔法を使用すると建物が崩落するリスクが有る。雷系統の魔術の悪影響は不明。

1ターン目

ハンスが音無し+、セフィがダブルキャスト、ルクレシアが『何でも聞くよ!』と『回レ回レ回レ』を歌うが、達成値不足で寄生虫は回転しなかった。

コレットがダムビットでアンチマジックを展開、ダメージ拡大したマジックミサイルを発射。**ミズキが狐火を放ち大ダメージを与えた。**セフィがアサルトとマジックミサイルを撃ち込む。ハンスは寄生虫に肉薄すると骨法で拳を二発と蹴りを一発放った。**蹴りは当たりどころが悪かったのかハンスが足を痛めた。**アロンザがシャンプーを握りつぶしながら投げつける。アリーヤが強化したアサルトを撃ち込むと、これがとどめになって、寄生虫を倒すことができた。

現場検証	深海の蒼光 9/23 21:54~22:14
<p>ルクレシアが大浴場の客を避難させたおかげで、犠牲者は出なかった。被害はハンスが不運で足を痛めたのみで、すぐにミズキに治療を受けた。</p> <p>ゴ布林帝国の兵が派遣されてきて、大浴場は一旦閉鎖。現場検証が始まり、一行は事情聴取を受けた。</p> <p>ほぼ裸の状態が無傷で寄生虫を退けた一行に敬服する帝国兵。</p> <p>セフィの報告でトキワソー関係者と異界の関係に疑いを持った帝国兵。身元確認ができ次第、トキワソー関係者の隔離を検討するようだ。</p> <p>寄生虫の死骸からは特に何も発見されなかった。今回の例に限らず寄生虫の被害者は徹頭徹尾『異常の無いゴ布林』だった。ゴブンの体格は良かったが、それは個体差の範囲だった。</p> <p>背中から割れて出てきた体液ですらゴ布林として異常のないものだった。便宜上『寄生虫』とは呼んでいるが、他の生物が寄生しているのであれば、ゴ布林のものではない物的証拠が出てくるはず。</p> <p>ハンスがマンハントを使った時も確かにその手応えがあった。本来なら寄生虫はアルカナハントになるはずだが。</p> <p>帝国兵は非常に礼儀正しく調査を終えると速やかに撤収。そこからも練度の高さがうかがえた。</p> <p>大浴場は二時間で復旧し、利用できるようになった。一行は部屋に戻って休息した。</p>	

朝の風景、そして出航	深海の蒼光 9/23 22:15~23:12
<p>朝食を摂る一行。ビュッフェ形式で卵と鶏肉と羊肉が中心の料理が出た。牛肉と豚肉はあまり見かけない。</p> <p>朝食を摂るとチェックアウトの前にゴブンの事で気になることがあったコレットが執事に話を聞いた。</p> <p>寄生虫の最初の犠牲者となったフィオレは、長年トップスターとして活躍してきたが、新しい才能に押されて次の公演では主役の座を外されていたという。舞台上ではその様子はなかったが、相当落胆していただろうと執事は思っている。事件が起きたのはフィオレの舞台公演の最終日だったという。</p> <p>寄生虫の被害に遭う条件について、絶望・挫折・転落・劣等感・真面目に生きがいを持って生きているなら被害に遭わない、など色々と言が出たが、結論には至らなかった。</p> <p>ホワイトとユラに、マルスでの情報収集を託して一行はホテルをチェックアウト。キサラギへと戻った。</p> <p>ミンクジラは8万ゴブで売れたようだ。</p> <p>女海賊Aの話によると、昨夜は劇場街でも寄生虫騒ぎがあったようだ。そのままホオヅキに向けて出航した。</p>	

報告・ホオヅキで色々・カラドブルグへ	深海の蒼光 9/23 23:15~23:56
<p>ホオヅキに到着した一行。</p> <p>コレットはミレイユに経緯を報告。賢者の石を受け取り、お菓子を補充し、DNA情報を補給した。</p> <p>一行はエリザベートに、ミッション遂行のためクリムゾンアイを地下牢から連れ出す必要が生じたことと、寄生虫騒ぎについて報告。エリザベートは状況を理解し、以下の外交機密情報を一行に与えた。</p>	
エリザベートの情報	
<p>クリムゾンアイが幽閉されているのは、カラドブルグから東に徒歩で10日の距離にある大規模収容所ブラックスター。</p> <p>マレーンでは過激派の王都奪回運動『フォックス・ハウンド（狐狩り）』が暗躍している。</p> <p>近々、フォックス・ハウンドによる大規模武力蜂起と襲撃があるようで、ブラックスターも襲撃対象になると想定。</p> <p>フォックス・ハウンドは表向きには、王都奪還よりも政情の安定を優先するセピア元帥に反発して、強引に王都奪還を目指している組織。</p> <p>フォックス・ハウンドの実態は、亜人であるセピアが軍を牛耳っているのに不満を持っている人間主義者の集団。</p>	

フォックス・ハウンドの武力蜂起の標的にはブラックスターも含まれているはずなので、レジスタンスに紛れてクリムゾンアイを強奪してくることをエリザベートは提案。ブラックスターが襲撃を受けるのは確かなので、クリムゾンアイが脱獄する原因をフォックス・ハウンドになすりつけばいいと一行をけしかけた。フォックスハウンドの武装蜂起についての具体的な情報は現地の盗賊ギルドが握っているようだ。

コレットのマスターのミレイユはコレットがやらかすことになるので、軍の直接の上官に進退伺を提出した。

フォックス・ハウンドは人間主義者の集団なので、一行は人間に化ける必要がありそうだ。（一行の中で人間なのはハンスのみ）特に種族がラミアであるアロンザはリメイカーが必要になりそう。（セフィとアリーヤが可能）

一行はVAPを飛行艇カガチに搭載し、カガチでカラドブルグに出発した。

着陸と変身

深海の蒼光 9/24 22:13~23:36

予定通り3日でマレーン上空に差し掛かったカガチ。女海賊Aが着陸地点をどうするかを聞いてくる。カガチは防塵処理を施したので砂漠の砂の中に埋めることもできるらしい。ブラックスターまではカラドブルグから一本道で行けるようだ。

色々議論の末に、目立たずに着陸し、カガチの隠しやすさと脱出にかかる時間を低減するために、カラドブルグから徒歩で少し離れた場所に着陸、一光を降ろしたカガチはブラックスターから徒歩で1日の距離にある海岸で待機。一行とカガチは信号弾を使って合図をすることになった。カガチとはぐれないようにするために、セフィがサーチフェイバリットで位置を確認できるよう、カガチにアイコンを残しておいた。

方針が決まったところでカガチは着陸。一行を降ろしてから待機場所である海岸へと飛び去った。

カラドブルグに入る前に全員で変装することになった。一行は変装を終えてカラドブルグの市街地へと入った。

変装まとめ（全員種族は人間にした）

アリーヤ	（自身のトランスフォーム 達成20）詳細は無し
アロンザ	（セフィのリメイカー 達成19）赤髪赤目で脚に傷跡がある女性（元がラミアなので脚の使い方に慣れていないのを誤魔化す目的）
コレット	（セフィのリメイカー 達成21）身長144cmの黒髪ロングヘアの少女
セフィ	（自身のリメイカー 達成19）現在（152cm）よりも若干低い身長で黒髪ショートボブ黒目の女性
（フォルトゥナ）	（セルフ変装ファンブル）フード付きマントを目深に被り、（火山採取用と思われる）ガスマスクを付けた。
ハンス	（セフィのリメイカー 達成19）凡庸とした外観の男性。右目に切り傷の跡が残っている
（アハト）	剣のままにしておく
ミズキ	（自身の妖術 達成28（傾国））ルクレシアの理想の男性
ルクレシア	（セフィのリメイカー 達成21）現在（145cm）より若干低い身長で白髪ショートカットで青目の男の子

位置関係



戦場となった首都

深海の蒼光 9/24 23:37~9/25 0:14

カラドブルグの市街地に入ってみると、そこは戦火に包まれていた。

拠点防衛用のポーン（正規軍）と橙色の特殊なカラーリングの量産型ドラグーンが入り乱れての戦闘状態だった。量産型ドラグーンの陣の中央では真紅のかなり改修を受けていると思われる量産型ドラグーンが空中戦をしている。正規軍のポーンは近代化改修を受けているようで専用のショットガンを使用しているが、EGGの性能差からか、ドラグーンを中心とした部隊のほうが有利に戦闘を進めている。王城の方はさらに激しい戦闘状態のようだ。

歩兵戦では可変型エッグで空を飛んでいる兵士たちが、陸戦型エッグで戦闘をしている正規軍を圧倒している。

ドラグーンの機体マークを見てみると、狐に噛み付いている狼の紋章がついている。フォックス・ハウンドの機体のようだ。

市民たちは逃げ惑っているが、大体は死んだか避難済のようだ。

そこに、王城の方からブルードラグーンMK-II改（カスタム？）が飛来して、瞬く間に3機のドラグーンを撃墜し、真紅の量産型ドラグーンと激しい戦いを繰り広げる。ブルードラグーンMK-II改がパワー負けしているようだったが、ブルードラグーンに片腕を切り落とされた真紅のドラグーンが撤退すると信号弾が上がって両軍が退いていった。

撃墜された無人のポーンの通信機から、『現在撃退に成功、総員けが人と撃墜機体の回収にかかるように』との命令が出ている。

市民たちは中央の博物館地下ホールのシェルターに避難しているようだ。通信機から情報を得たコレットがコクピットの中を見ると『88式グーン操縦マニュアル』なるものが落ちていたので、これを回収してシェルターへと移動した。

地下シェルター

深海の蒼光 9/25 0:16~21:42

地下シェルターは割とあっさり見つかった。中に入ると多くの市民がうずくまっている。怪我人もいるようだ。シーフギルドの間もこの中にあるようだが、今のところ見分けをつける方法はなさそう。

怪我人の応急手当を手伝いながら話を聞くことになった。一行が十人ほど応急手当をしたおかげで、一行の目に入る範囲でこれ以上避難民が死ぬことは防げた。（水は10L消費した）

おばさんたちの話

マレーン正規軍と戦っていたのはフォックス・ハウンドだった。一般市民のことは考えていないようなので、おばさんからはテロリスト扱いされていた。

フォックス・ハウンドはこれまでは軍の施設を爆破したりしていたが、とうとう市街戦をするようになった。戦闘が始まったのはほんの1~2時間前。今回のような市街地での大規模戦闘は初めてらしい。無差別爆撃もしていたという。

メイフィリア王女の青龍（ブルードラグーン）がいるから大丈夫だと信じている。赤竜皇帝ヴォルケイノの襲撃の時もメイフィリア王女が街を守ったらしい。

現在、ブラックスターには聖女がいるらしい。カラドブルグでお説教をした後、歩いて10日離れたブラックスターに向かって2週間前に出発したという。定期的にブラックスターには慰安に訪れているらしい。（慣れた行き先のようなのでまず到着していると思われる）食いしん坊なのに自分の食べ物を人にあげるから餓死しないかと心配されている。

ブラックスターに行った聖女はテレサだった。猫耳がついているので亜人に厳しいフォックス・ハウンドにひどい目に遭わされているかもしれない。

ポーンでは無理だが、量産型ドラグーンは半日もあれば無補給でブラックスターまで到達できる。

戦闘の様子を思い出すと、正規軍のポーンがなにか下駄のようなものに乗って飛んでいた。現在、王宮は大分混乱しているので一機拝借すればブラックスター襲撃に間に合うかもしれない。しかし、飛ばすためにはマニュアルが必要そうだ。

コレットがポーンのコクピットで拾ったマニュアルを読むと、88式グーン、つまり空飛ぶ下駄の操縦マニュアルだった。本来は上に乗ったEGGからコントロールするものだが、下駄の中にもコクピットがあり、けっこう広い居住空間まであることが分かった。シェルターの中にはシーフギルドの人間らしき人は見当たらなかった。

応急手当を施した怪我人は後から来るであろう軍のレスキューに任せておくとして、一行はシェルターを出た。

アンダー・ザ・ブリッジ

深海の蒼光 9/25 21:43~23:12

シェルターから外に出ると、正規軍らしいEGGが空や地上を行き来している。

コレットが召喚術で水を補給。ミズキとフォルトゥナとアロンザがシーフギルドを探したところ、壊れた高架橋の下に集まっているギルド関係者の影があった。さっそく話を聞くシーフたち。今回の情報料は質問一つにつき金貨二枚（200セレン）

シーフギルドの情報

王城前にEGGが集まっているが、取り敢えず一時的に応急修理をしている状態。正規軍は混乱していて駐機スペースを考えている場合ではないだろう。

シーフギルドからは下駄（88式グーン）の奪取を手伝うことはできない。

セピア元帥のせいでシーフギルドは仕事がしにくい。フォックス・ハウンドの心情が理解できる。

フォックス・ハウンドを率いるのはウルフと名乗っているゲリラ屋。ウルフ・ハウンドというEGG部隊がいて、カスタマイズされたEGG（カスタマイズされた量産型ドラグーンのことと思われる）で正規軍を圧倒している。これまでも小競り合いはあったようだ。

ウルフの資金源はマレーンの人間主義の貴族のタカ派。莫大な資金源があるせいでEGGのカスタマイズができていらしい。

今回のカラドブルグでの戦闘は、ブラックスター襲撃を行うための、正規軍に対する牽制が目的らしい。フォックス・ハウンドに配備されている量産型ドラグーンの巡航形態であれば半日ほどでブラックスターに着くから、今日・明日にでもブラックスターは襲撃を受けるだろう。

真紅に塗られたドラグーンは隊長機のような。ウルフが乗っている可能性が高い。（調査中なので確証はない）

フォックス・ハウンドが首都への牽制攻撃をしてまでブラックスターを襲撃するのは、そこに極右タカ派の政治犯が収監されているから。政治犯たちはセピアの策で追い込まれたらしい。

ブラックスターに収監されている政治犯が野放しになっていたらマレーンは今頃、武装蜂起と内戦の日々だっただろう。

ブラックスターには防衛のためのEGGとエッグの部隊が置かれている。正面から殴り込むには無理がある。ブラックスター解放は正規軍が損耗している今では難しい。（シーフギルドではブラックスターは既にフォックス・ハウンドの手に落ちたと想定していると思われる）

EGGや88式グーン（空飛ぶ下駄）が城門前に置かれているのはいつもの格納庫が使えないからだろう。奪取するなら今がチャンス。

セピアが名付けたブラックスターの正式名称は黒星（ヘイ・シン）という。

一行はEGGや88式グーンが集結しているという城門の方へと移動することとなった。

盗んだゲタで走り出す

深海の蒼光 9/25 23:16~9/28 22:21

ハンスの先導で密かに王城の入り口まで移動した一行。

シーフギルドでの情報通り、城門前では破壊されたポーンや88式グーン（ゲタ）の修理をしている。下駄の扉は開いているが、開けた場所なので、見咎められずに入るのは難しそう。姿を隠す魔術があれば大丈夫そうだが…。

整備兵たちの怒号や嘆き節が聞こえてくる。動かないEGGはばらして部品にするというくらいに追い詰められている様子。

最も近いゲタまでの距離は20mほど。ゲタの上には片腕が外れて直せないポーンが乗っている。

エンチャントハイドで姿を消してハンスがゲタのコクピットに入る。コクピット内は無人だったが、起動するにはマニュアルと駆動キーが必要になる。駆動キーは外してあって、回すためにはかなり高い鍵開け技術（目標値25）を要求される。鍵開けに挑戦するには30分ほどかかる。ユラから貰った鍵の使い所のような。

一度機体から出てマニュアルと何でも開けられる輝きの鍵を受け取ったハンスはゲタのコクピットに戻り起動することができた。

しかし、ゲタを動かすには上に乗っているポーンも同時に動かす必要があることが分かり、コレットもインビジブルエアで姿を消してポーンのコクピットに入った。ポーンの無事な腕にはビームカノンとビームソードが装備されている。

しかし、コクピットに入った時にインビジブルエアが解けてしまい、コレットは整備兵に発見された。なし崩し的に全員がゲタに走り込んで慌ててブラックスターに向けて発進した。ゲタに取り付いた整備兵が何人か吹き飛ばされたようだ。

ブラックスターに向かって巡航に入ったゲタ。中に入った一行は睡眠不要（このときリメイカーで人間に変身していたので、実際は睡眠不要というわけではなかった）でポーンに乗っているコレット以外は睡眠を取る、

追撃の青龍（ブルードラグーン）

深海の蒼光 9/28 22:22～23:50

ブラックスターへ向けてのフライトで三時間が経過した頃、レーダーに反応があった。後方からゲタの二倍の速度で追いついてきた機体。凛々しい女性の声で、所属と軍用機奪取の目的を問いただしてきた。機体はブルードラグーンMK-IIカスタムと随伴のビショップが二機で、共に飛行形態に変形している。ブラックスターへの行程はまだ三割程度を消化したのみ。

追跡機への対応を迫られる一行は考えを巡らせる。身分を明かして事情を説明するなら、クリムゾンアイを連れ出すことか、マレーンで指名手配されないことの、どちらかを諦めるしかない。かと言って交渉や言いくるめは通じそうにない。結局、全速を出して振り切ることが一番マシな手段だと判断。ハンスの操縦で全速でなるべく低空を飛行。ハンスとコレット以外は耐ショック体勢になって逃げ切りにかかった。追手は既に後方200m。

追手は撃墜を宣告し攻撃を開始した。全速飛行中なのでブースト回避はできない。ルクレシアの『私の勇者様』に力をもらったハンスは後方から追いつがるフェザーの攻撃を躲し、コレットも歌の力に背中を押されて切り払いでフェザーを撃墜する。さらにブルードラグーンから大口徑ビーム砲とマイクロミサイルが発射されるが、ルクレシアの歌とハンスの華麗な操縦で躲してダメージを免れる。コレットはまず撃墜することはないと腹をくくって足止めになるならと反撃のビームカノンでブルードラグーンMK-IIに発射、命中させた。左翼にダメージを受けたブルードラグーンは飛行能力を失いかけ人型に変形しビショップに乗り、追撃を続ける体勢になる。

そのとき、前方から赤いドラグーンと量産型ドラグーン二機が現れた。フォックス・ハウンド側のような。正規軍の三機とフォックス・ハウンドの三機が交戦状態に入った。ブルードラグーンと赤いドラグーンのパイロット同士が舌戦をしながら戦闘を繰り広げる。

隊長同士の会話

蒼ドラグーン『また貴様か、このテロリストめ！』

赤ドラグーン『テロリストと我々をひとくくりにするのならばそれは甘んじて受けよう。しかし、我々を支援しているのも国民だ。君も**一国の王女だというならば**、臣民の声には耳を傾けるべきではないのかね？』

蒼ドラグーン『話は聞かせてもらおう、但しそれは取調室でだ』

赤ドラグーン『そのような強硬な態度故に、臣民の不信が募るのだよ。**狐風情を国の頭にのさばらせることになる**』

蒼ドラグーン『聞いたような口を叩くな、あれは優秀だ。この国の事を考えている』

赤ドラグーン『たとえよしんばそうだと、貴方は最適解ばかりを考えすぎて臣民の感情をまるで無視している。**我々がいか**
にヴォルケイノ騒動で魔物によって傷つき、人間以外に恐怖を抱き、そして今も尚悪夢にうなされ続ける臣民がいることを忘れて
いるのではないかね』

蒼ドラグーン『人間は強い、乗り越えていける。**フォクシーと魔物の区別を理性的につけることもできる。時間はかかるだろう**
が傷から逃げてはいけない』

赤ドラグーン『それは貴方のエゴではないかね。**弱い者の立場を考えればこそ、今は国政に悪人を入れるべきではないのだ**』

蒼ドラグーン『ならば人間にあれ以上の働きができる者がいることを今すぐ証明してみせろ！ 地に足のつかない理想主義者共
め。だからお前たちは！』

赤ドラグーン『極論を言う！』

ビショップが一機撃墜され、ビーム砲やサーベルで乱戦になるものの、正規軍側が形勢不利を悟り撤退していった。赤いドラグーンと随伴機が接近してきてついてくるようにと通信が入る。一行はそれに従って、フォックス・ハウンド側の基地(?)へと潜入することとなった。

狼の主張

深海の蒼光 9/29 21:19~23:11

首都カラドブルグからブラックスターへのおおよそ中間地点(ゲタでブラックスターまで5時間ほどの距離)にあるフォックス・ハウンドの基地は鉱山跡を利用したものだった。ドックには大量のドラグーンが並んでいる。

一行のところに狼の被り物をした男が歩いてきた。狼の目の部分には赤い宝石が嵌っていて目線が読めない。男はウルフを名乗って、鉱山基地とフォックス・ハウンドを束ねていると言った。ウルフは一行にカマをかけて動揺を誘いホオヅキの冒険者だと看破する。そして、姫(鋼鉄王女メイフィリアのことと思われる)にはそのような器用なことではできないから気をつけろと言った。ウルフはホオヅキの冒険者がフォックス・ハウンドを街を破壊するだけのテロリストという悪だと断じ打倒してマレーンの内乱を鎮圧に来たのではないかと疑い、フォックス・ハウンドのことを誤解しないように知ってほしいと話し始めた。

実際にカラドブルグの街を破壊したのは、言って解らない相手には力づくで解らせなければならないことがあるから。そのために流血があるのは仕方がないことで、歴史ではそのようなことが繰り返された。

この場にいる一行を力で押さえつけるのは簡単だが、背後に控える世界的な英雄たちや数々の古代兵器や師匠たちを敵に回すことになる。ホオヅキを敵に回したくはない。主義思想や基本理念が対立するのならともかく、野盗の類と勘違いされて退治されたくはない。

ブラックスターの攻撃は次の日の夜明けに開始する。目的は同志を解放するため。収監されている政治犯の多くは、アクシズに住む3/4の人々を見捨てようとした議員を激しく弾劾したからこそ捕らえられている。ブラックスターにはジャック・レズンをはじめとした10人以上の大物政治家が囚われていて、彼らを解き放てば国を立て直してくれるだろう。

ジャック・レズンはマレーンの中では極右タカ派の政治家で、政情の安定のためなら革新など必要ないと言い切った政治家である。

最近になりEGGの中枢部ブラックボックスの解明が進み、理屈が解明できたわけではないが模造品なら作れるようになった。それがレプラグーン。ウルフが乗っている赤いドラグーンはヴォルケイノ戦で破壊されたレッドドラグーンカスタムをレプラグーンのパーツを使って修復し近代化改修を加えたもの。

フォックス・ハウンドの資金源は主にタカ派の貴族や議員だが、それだけでは資金が足りず、財産を提供してくれた多数の一般階級の人々によって成り立っている。

ウルフが巨大な金属の扉を開けると、鉱山の地下の大きな空間に明かりの灯った無数の家々からなる巨大な街が広がっていた。現在のカラドブルグよりもなお巨大に見える。遠目には一般市民が平和に暮らしているように見える。カラドブルグで見た避難民たちを思い出してみると抑圧されているようには見えなかった。

マレーンの元々の首都に比べてカラドブルグの規模は1/4ほどで、市民を収容するためには規模が足りない。いまカラドブルグに住んでいるのは、過去の権力にしがみついた議員や王族とそれに与する上級市民たち。それでも目立った難民が発生しないのは、フォックスハウンドがこの街で一般市民の残りの3/4を扶養しているから。街には無理矢理連れてこられた市民は一人もおらず、私財を投げ捨ててもフォックス・ハウンドとともに暮らすことを選んだ人ばかりがいる。この街は大規模な落盤事故で放棄されていた鉱山跡で、ここがマレーンの中心だという意味を込めて中枢（アクシズ）と呼んでいる。この街を備蓄と補給物資で維持できるのはあと半年から一年。それが過ぎるとアクシズの市民はすべて餓死をする。軍備に回す金を食糧など生活物資に回すことも考えたが、それは問題の先延ばしにするだけでやがて干からびることはない。

セピア元帥が政情を安定させて国家の基盤を回復するのが先だと言っているのは、弱い人々を無視した貴族と上級国民の論理であり、だからこそフォックス・ハウンドが打倒する。人々は正規の政府に頼りたがるものだから、人間の弱さに配慮できる者が導かなければならない。

本来の王都を回復して弱い人間たちを救うためには、議会を占拠するだけでは足りず、政権を打倒して国の中枢を担う政治家が必要となる。そのためにはブラックスターを襲撃しなければならない。

元々の首都の食糧や生活基盤を支えていた生産プラントは本来の首都にしかない。だから無理矢理首都を奪還してでも取り戻して機能を取り戻さないと弱い人間たちは餓死をする。現在の政権に対して、この街に避難した市民たちの生活物資が必要なことは訴えたが、政情が安定するまで待てと言われた。自分たちの窮状を理解できない人は拒絶するしかない。だから、フォックス・ハウンドはテロリストではなく、マレーンの未来を憂う集団である。既得権益にしがみついた政治家たちや王家はフォックス・ハウンドをテロリストと呼ぶ。それは甘んじて受けるが、大義がどちらにあるかを知ってもらいたい。フォックス・ハウンドのすることにホオヅキは傍観して欲しいということを、ホオヅキの上位者に報告して欲しい。

ウルフの主張に概ね嘘はないだろうが、現政権にも言い分はあるだろう。メイフィリアには彼女の言い分があるはず。フォックス・ハウンドは翌日の夜明けにブラックスター襲撃を控えている。襲撃のタイミングを漏らされると困るので、次の朝までアクシズで過ごしてもらいたいと言われる。アクシズの襲撃が終わってから目的地に送り届けるとウルフは言った。ブラックスターへの随伴の許可を求めたが、それは身の安全を保証できないからと拒否された。正規軍の鹵獲品であるゲタで作戦に随伴するとフォックス・ハウンド側に撃墜される恐れがある。ブラックスターに行くためには隙を見てポーンとゲタで逃げ出す他はなさそうだが、逃げ出すための情報が不足している。ウルフは一行に使って良い宿の場所を教えて挨拶をするとどこかへと去った。

ウルフの主張を勝手に要約（要約する過程で重要情報を削いだ可能性あり）

フォックス・ハウンドはこのままでは餓死するような弱者が生きていけるようにするために行動している。

現政権は既得権益を持つ貴族や上級国民のためのものであり弱者を無視したものだから打倒する。

ブラックスターを襲撃するのは政権打倒後の新政府を作るため。

今のところホオヅキと対立したくない。

ブラックスター襲撃についてこれたら困る。

アクシズ探訪

深海の蒼光 9/29 23:12~9/30 21:43

街を一望することは可能なので、地図を用意するためにセフィが写真記憶で街の形を記憶した。

監視はつけられているが、本職のシーフではないようだ。

遠回りしながら街を歩くと、子供たちや立ち話をしているおばさんたち、工房で鍋を作っているおじさんたちがいる。

亜人もチラホラと見かけるが、みんな下働きやきつい仕事をさせられている。

耳を澄ませてみると、どこからか泣き声が聞こえてきた。泣き声の主は鎖で繋がれて酒場で皿洗いをさせられているテレサだった。酒場の主人にちゃんと働かないと飯抜きだと脅されている。

テレサは連れてこられて無理やり働かされていた。酒場には他に亜人はおらず、酒場も特に困窮しているわけではなさそう。

酒場のオヤジは亜人を押し付けられて迷惑している。ヴォルケイノの戦争のせいで亜人は何をやらかさか分からないと思われているようだ。一行が引き取るといえば喜んで酒場のオヤジはテレサを手放した。

亜人は手枷足枷首枷を外してはならないという決まりのようだ。亜人はいつ人を襲いだすかわからない不穏分子として扱われ、手枷足枷首枷をつけられて強制労働させられていて、亜人もそれを受け入れて仕方ないと思っているようだ。

テレサはいつもどおりブラックスターに向かっていたところ、巡回しているフォックス・ハウンドに亜人は危険で野放しにするわけにはいかないと捕獲され連れてこられたという。前回来たのは二年前だがこのような場所はなかった。

テレサにはアクシズから脱出するルートが分かるという。連れてこられた時に普段は使わない出入り口を使ったという。自分たちでハッチを開けなければならないので苦労するらしいが、そこを開ければ出られるはず。

簡易年表

5年前	ヴォルケイノ戦開戦
4年前	
3年前	ヴォルケイノ戦終結。アレクサンダーを単身討ち果たしたセピアが元帥に昇進。
2年前	カラドブルグ建設。テレサがブラックスターを訪れた。(当時アクシズはなかった)
1年前	
現在	

そうしている間に夜となり、人影もまばらだが、平和な雰囲気。亜人も鎖には繋がれているが食事は与えられている。

小屋の一つではエルフの親子が食事をしている。

テレサに誰を助けるのかを聞かれたが、その場では答えることができなかった。

テレサを連れて歩いていることが目立つことはなかった。

宿泊

深海の蒼光 9/30 21:48~23:58

宿について一行は誰かに部屋の物音を聞かれているかもしれないことを警戒してテレサと筆談を始めた。

テレサの証言

クリムゾンアイとはよく面会していたので(牢の)場所を知っている。クリムゾンアイは様々なことを憂いているらしいが、自分の身の上のことは語らなかった。彼は具体的には口にしなかったが、生命が生まれてくる意味や存在の理由など、様々なことを考えていたらしい。

ブラックスターは厳重に警戒されていて、普段なら入り込むのは難しい。周囲20kmまで誰も隠れて逃げられないように完全な平地になっている。徒歩で逃げるのはまず無理。見張り塔から望遠鏡を使えば丸見え。追手はEGGやエッグで飛んでくる。

テレサは耳や尻尾がついているが人間らしい。

マレーンの政治犯とも会っていたようだ。

テレサと筆談をしていると、宿の女給が食事を持ってきた。食事には小さなメモが挟まっていた。

『ホオヅキの冒険者、敵地への潜入、及び聖女様の身柄確保ご苦勞。 AM2:00に3番埠頭ドックにこられたし、AM2:30よりアクシズの襲撃、制圧を敢行する。 アクシズへの滞在は命に係わる。注意されたし。』

裏には第3埠頭の地図まで書いてある。女給はマレーンの王宮側の間者で、一行をテレサを救出に来たと思いこんでいるらしい。追跡してきたドラグーンは一行を泳がせて様子を見ていたようで、一行がレッドドラグーンに従ったので潜入任務だと判断したようだ。マレーンの王宮側はフォックス・ハウンドがブラックスターに向けて出撃した直後を狙ってアクシズをまるごと破壊するようだと言われた。

アクシズを破壊するために空洞ごと爆破してまるごと潰すことになるので住民は全滅するだろう。この作戦を思いとどまらせるためには権威のある人間（メイフィリア王女？）に直談判するしかなさそうだ。王宮側とコンタクトするなら、マレーンのEGGが近くまで来ていたなら、ここまで乗ってきたポンとゲタの通信機を使えばできそうだ。セフィ、ハンス、ミズキ、ルクレシアは知名度が1000を超えているので、王族は会話には応じざるを得ないだろう。

全部を見なかったことにすれば、クリムゾンアイの救出はスムーズに進むと思われるが……。現在の時刻は20時。襲撃まであと6時間。

アリーヤとコレットはアクシズで王宮側による大量無差別殺戮が起こることこそが王宮側から人心を離反させるためのフォックス・ハウンドの策ではないかと疑った。

テレサの手枷足枷首枷はただの鉄製で鍵開けで外せる程度のもの。テレサの案内で連れ込まれたときに通った入り口まで案内してもらうこととなったが、テレサの表情が暗い。

テレサの心情

主義主張の行き違いだけでたくさんの人を殺す話になったのが悲しい。

アクシズの人々は亜人に鎖はつけたが、殴ったり蹴ったりすることもなく食事も与えていた。アクシズの人々は亜人に対する恐怖を感じながらも追放したり殺したりしろと言う人はいなかった。（差別自体を指すのか、追放や殺害を指すのかは不明確だが）それを良くないことだと思っているから、鎖に繋ぐという形ながらも共生の道を探っている。

亜人の側も人間が共生の道を探しているのを察して口には出さないが大人しく働いている。

互いに相手の言いたいことを分かっていると言うだけでもっと良い共生の道が探れるはずだが、互いに自分のことを理解してもらうのを諦めて、人間は亜人を鎖でつないで、亜人は人間に大人しく服従している。それが悲しい。

行き過ぎた極論は、周囲の無理解や理解を諦めることから生まれる。悲しい連鎖を断ち切ることが英雄の役目ではないか。

いま一行を監視している、フォックス・ハウンドのシモンという男はウルフの側近で、色々と事情を知っているはず。フォックス・ハウンドが本当はどう思っているのかをメイフィリア王女に伝えることができれば、王女も話を聞いてくれるかもしれない。

一行は宿から出て、シモンを人気のない空き地に誘導し、声をかけた。

物陰で息を潜めていた40代後半に見えるシモンだったが、尾行を看破されて驚く。話をしないかと一行が呼びかけるとそれに応じた。テレサを引き取った一行を奇特だと言う。

シモンの語り

アクシズの街は、仮住まいなのだから完全に理想だとは言えない。こんな穴蔵に住まずに済むなら良いが、実際に（避難民が）いるから仕方がない。アクシズは国などではなく、マレーンから見捨てられたゴミ屑の掃き溜め。シモンは家族がアクシズにいるからフォックス・ハウンドにいる。そうでなければマレーンの軍に在るだろう。

人間と亜人は互いに遠慮しすぎていることは仕方がない。互いに分かってはいるが、距離を取りそこねている。人間みんなが亜人が暴れると思っているわけではないが、一部の人間は本気で亜人に怯えている。だから、一部の人間だけの都合で仲良くすることはできない。人間と亜人の間でより良い距離のとり方が分かるようになるには時間がかかる。しかし、その前に人を食わせていかなければならない。だから早期首都奪還が必要になる。

政府がアクシズの人間をいないものと考えてカラドブルグにいる人間だけを国民だとするならば食糧問題の解決は簡単で、カラドブルグの元老院議員は全員そう考えている。そうでない議員はブラックスターに収監されている。（カラドブルグの議員たちは）自分が良ければそれでいいと思っている。

フォックス・ハウンドは、国から支援を得られない以上、アクシズの市民を食わせていくためにもドブネズミのように戦い続けるしかないが、王宮側とは戦力が違いすぎるから、そう長くは保たないだろう。

マレーンは食糧生産を首都の魔術工学プラントに依存していたため、全プラントの八割にもなる首都のプラントが使えない今は食糧生産のキャパシティ不足になっている。セピアは農耕生産力を上げるために自らも加わって畑を開墾しているが、首都で開墾作業に参加する人数などほとんどない。そのため労働力はアクシズにある。だが、一度マレーンから切り捨てられたアクシズの人民たちに、今更畑を作るから協力してくれと王宮から言われても、協力できるはずがない。開墾で家庭菜園レベルの耕作地が少しばかり増えても飢えてしまうのは変わらない。しかし、アクシズの周囲を開墾するわけにもいかない。

首都を奪還するためには軍備が必要だが、規模の大きな軍を維持するためには兵站、つまり大量の食糧が必要になる。しかしその食糧を得るためには首都のプラントが必要になる。セピアが地盤を整えるまで待てと言っているのは、首都を奪還できるだけの軍を支える物資を十分に供給できるようにするには時間がかかるという意味。それはフォックス・ハウンドにも分かっている。

議会を乗っ取ることができれば、『俺たちの国』が出来上がる。自分たちの国のためならアクシズの人民でも農業を始められる。セピアは良くやっているが、食糧問題の解決のために悪の親玉として犠牲になってもらうしかない。それについて心苦しさはある。

アクシズの人民にとって、マレーンから切り捨てられた絶望は根深い。話し合った程度では解決にならない。国王が土下座をするなら話は別だが、アクシズまで出てくるはずがない。

カラドブルグにいる議員たちとブラックスターに収監されている議員たちも交えた大きな話し合いなど意味がない。王宮側は何もせずに見ているだけでアクシズは飢えて誰もいなくなる。そうなれば食糧問題は解決し、農耕生産力が復旧してからまた人口を増やせばいい。カラドブルグの議員たちはそう思っている。しかし、ブラックスターの議員たちも所詮は議員なので、助け出した後は敵に回るだろうことも分かっている。

そこまで分かった上でウルフはその先のことを考えているはず。しかし、その計画は明らかにはなっていない。ウルフは何を考えているのかわからないが、今のところ間違ったことはしていないし理屈も通っている。アクシズの人民は食べていくために、賭けであってもウルフについていくしかない。

説得できそうな相手はメイフィリア王女くらいしか思いつかないが、シモンの話をそのまま伝えれば良いのではないかと思えた。乗ってきたポーンに用事があるとシモンに言い、彼が同行するという条件で許可をもらった。ポーンが置いてある場所までは安全に行けることになった。

シモンの話を勝手に要約（要約する過程で重要情報を削いだ可能性あり）

フォックス・ハウンドはアクシズの人民を養うために何を考えているかわからなくてもウルフに従って戦うしかない。

アクシズの全員が亜人に恐怖を感じているわけではないが、亜人への恐怖心は根深く、すぐには解決できない。

マレーンの食糧生産力は完全に不足。首都（の生産プラント）を奪還するしか食糧問題解決の道はない。王宮側のやろうとしていることは分かるが、食糧問題解決より先にアクシズが飢える。

カラドブルグでは耕地面積を増やそうとしているが労働力不足。労働力はアクシズにある。アクシズの人民は一度切り捨てられているので、アクシズの人民が全滅すれば食糧問題が解決すると思っているであろう王宮側のことは全く信じられない。だから一緒になって開墾作業などできるはずがない。王が土下座をすれば…？

ブラックスターに捕らえられている議員たちもどうせ自分たちを救ってくれないことは分かっている。

アクシズの人民も自分たちの国のためなら開墾作業もできるのではないか。

通信

深海の蒼光 10/2 21:26~23:32

シモン同伴でEGGドックに移動した一行。ポーンは腕を修理されていて、88式グーン（ゲタ）共々燃料補給されていた。周囲にはレプラグーンが並んでいる。

メイフィリアへの通信を前にしてセフィはリメイカーを解除。88式グーン（ゲタ）のcockpitからレーザー通信を試みるが有効範囲内に相手はいない。無線による暗号通信なら可能な距離だが、暗号通信では同じコードを拾ってもらえるまで打ち続ける必要がある。カナで32文字の一文しか送ることはできないが、どの機体からの通信なのかわかるようだ。検討の末、暗号を打電した。

『メイフィリアデンカニキンキュウハウコクアリ、ホオヅキ、セフィ』

待つこと5分。『ツウシンイレル ポウジュセヨ』との暗号電文が入ってきた。通信回線を開いて鋼鉄王女メイフィリアとの画像付きの通信が始まった。代表でセフィが膝をついて事情を説明する。

メイフィリアとの通信

セフィ 『――こちらホオヅキ所属セフィです。つながっているでしょうか』

メイフィリア 『私がメイフィリア・フォン・リナンデ・マレーンだ。お前たちは我が軍から奪取されたポーンで間違いはないな？』

セフィ 『ええ。テレサさんの保護を完了いたしました、ホオヅキのセフィです。王女殿下に於かれましては火急の要件とはいえ、このような時間の応答を受け入れて頂き、誠にありがとうございます』

メイフィリア『前置きは良い。ポーンの操縦から大方そんなところじゃないかとは思っていたが。私に何の用だ?』

セフィ『――僭越ながら申し上げます。殿下はこれより、真に民草を切り捨てようとしている、と伺いまして。その一件についての誤解を解きたく。この場にいるものは『皆、難民にすぎません』。その日の食に苦しみ、先の見えぬ未来に絶望し、自ら破滅に向かっていると知りながらも振り上げる力のない、民草です』

メイフィリア『随分といきなり、キツイことをいってくるものだな。どこで聞いた。ウルフ・ハウンドの連中にそう吹き込まれたのか?』

セフィ『時刻のこともあります故、単刀直入に申させていただきました。礼を失していることは弁えております。が、これは吹き込まれたことに非ず。私が町の中を歩き、人々の生活を、わずかばかりながら見、そしてテレサさん自身から伺った話から得た答えです。――彼らとて、真に争いを望んでいるわけではありません。家族のために、隣人のためにならば、身を粉にして支える力となったださるはずです。マレーンという国は……、果たして『元老院』だけのものなののでしょうか』

メイフィリア『確かに我々は中枢を攻撃しようとは考えている、が、あくまでそれは軍事施設のみだ。EGGドック、及び軍備について破壊をした後は、速やかに中枢を制圧する。民間人に危害を加える作戦は立案されていない。お前の考えているようなことは無い、心配しないで良い』

セフィ『この町の立地は、ご存じでしょうか』

メイフィリア『むしろお前達こそ大丈夫か。内部に密偵を放ったが、居住区画の一部に爆弾が仕掛けられているという報告をしたっきり連絡が途絶えている』

セフィ『――どうにも食い違いがあるようです』

メイフィリア『何が起るかわからん。テレサを救出ということの意味はわからんが、すぐに逃げられるなら逃げた方が良いぞ』

セフィ『……失礼。その爆弾の配置されている場所を早急にお教えいただけますか』

メイフィリア『住居区画上空の空洞内部だな。地図を見せよう』

モニターの地図上に爆弾の詳しい配置が表示された。位置を写真記憶するセフィ。

セフィ『此方に来た文によりますと、「マレーン軍がアクシズを壊滅させる」とのことでしたが』

メイフィリア『そのことだが、確かに元老院や一部の貴族たちは、アクシズの市民を全て葬り去ろうという動きがあるのは聞いている』

セフィ『……お願いいたします。そんな位置に爆発物があっては…、本当にこの街が全滅します』

メイフィリア『私や元帥はそれには断固反対しているつもりだ。そのような無茶苦茶な作戦についても承諾していない』

セフィ『……安心しました。いえ、もしや、と疑ってしまった心の弱さを叱責されても止む無いです』

メイフィリア『何とか、アクシズの住民たちを説得して、カラドブルグへ連れてこれると良いのだがな…』

セフィ『……アクシズの住民を受け入れられるだけの場所が、食糧が、カラドブルグにあるのですか？アクシズの民は、先行きの見えぬところから、国そのものに対して希望を失いつつあります。……まずはその間を、双方埋めるところから行われるとよいかと』

メイフィリア『そんなものはどうとでもすればいい。飯がないならみんなで分け合えばよいのだ。一人一食満足に食べないから食べ物がないというのは極論だよ。皆が半分ずつ分け合えば問題ない…まあ、現実はその理想的にはいかないがな』

セフィ『私たちは私たちが、この町に仕掛けられた爆薬をまずは何とか致しましょう。そうせねば、対話も何もできなくなってしまいます』

メイフィリア『なぜ、フォックス・ハウンドが爆薬なんて仕掛けているのか皆目見当もつかないが、気をつけろよ？』

セフィ『……解りました。そちらの手の方と連絡が取れなくなった以上、其方も十二分に気を付けてください』

メイフィリア『そうだな…だが、もはや我々が何を言ったところで、アクシズの民は聞いてはくれまい。動乱の後のごたごたの中とは言え、国の3/4の民を王宮が見捨てたのは事実なのだ』

セフィ『——そうですね。それこそ、王族が直接に、頭を下げでもしなければ。誠意として受け取ってはもらえないと思います』

メイフィリア『今更許してくれと頭をさげたところで、許してもらえないだろう。恥ずかしい話だがな。私の頭一つ下げれば良いならいくらでも下げよう、だが、そんなことで許してくれるほど、捨てられた民は私達の事を良く思ってくれてはい？』

セフィ『……許してくださるそうですよ？少なくとも、最低でも一人は。ね、シモンさん。良く思われていないのであれば。それこそ最初は謝るところからです。終わらなければ、関係はもう一度作れるのですから。懐に踏み込まずして諦めては、鋼鉄王女の名を、セビアさんに笑われてしまいますよ？』

メイフィリア『……ふむ、確かにやってみなければわからんか。その通りかもしれないな。とりあえず、まずは爆弾だ。その後でまた続きは話すでしょう』

セフィ『ええ。何とか致します。故に、メイフィリア殿下も何とかなさってください』

通信を終了すると、シモンに居住区画の上空、空洞部分について訊くが、シモンは考え込んでいる。シモンはデイビッドを除けばウルフの最側近。シモンが知らないということは他の人間はまず爆弾のことなど知らないはず。何かの間違ひではないのかとまだ信じられないシモン、

メイフィリアがアクシズの住民たちのために頭を下げるというのを聞き、考えさせられたシモン。シモンは王族がアクシズの住民たちのことなどどうでもよくて皆殺しにしても心が傷まないと思っていたようだ。シモンは考えを改める気になった。

とにかくアクシズの住民の安全に関わる事。シモンも家族が生き埋めになっては困ると協力してくれることになった。メイフィリアから教えられた地点は落盤防止のための補強工事を行った場所らしい。

コクピットから周囲を見ると、人が集まってきているわけでもない。シモンに任せていれば安心だと思っているようだ。

爆弾解除

深海の蒼光 10/2 23:33~10/5 22:05

シモンに連れてこられてきたのは**工事地区**。作業員も仕事が終わって、警備も含めて誰もいない。

工業用エレベータで上昇し、現場に向かう。**現場は立入禁止地区**。落盤したことがある**アクシズ**は定期的に補修を繰り返しているらしい。

パッと見た感じではそれらしいものはない。が、**ルクレシア**の歌で感覚が鋭くなった**シーフ**総出で爆弾を探すと補強材の裏側に設置された爆弾が15分ほどで見つかった。**アリーヤ**が爆弾の構造を解析すると、爆弾は**構造物破壊に特化された半径20mを吹き飛ばすもの**だった。**AM3:00**に**セットされた時限装置**と**リモコン**で即時爆破するための**受信機**がついている。これを**コレット**が取り外して、ひとつめの爆弾の解除は成功した。設置した爆弾が発見された場合を想定していないようで**ダミー信管**はついていなかった。爆弾のサイズ自体は**小樽爆弾**程度。



行った処理

爆弾を探す	目星+しらべる (屋内)
爆弾の構造解析	運転orガンナー (知力依存) 判定。(達成値18では成功した)
爆弾の無力化	運転 (知力依存) 判定。シーフスキルがあれば判定に+4 (目標値15) 大海賊の場合はシーフスキル有りとして扱う。

実際に爆弾が見つかったことで、シモンはまた考えを改める。このような補修工事を行った箇所はあと4箇所あるという。爆発したら空が落ちてくると焦るシモンだった。

爆弾を解除しても再度爆発するように設置し直されたら意味がないと気づいた一行。爆弾を再利用できなくするには水に漬け込むことが必要になる。近くでそれができるのはエレベータで下がったところにある貯水槽。解除した爆弾を持ち運びながら、残りの爆弾を解除することとなった。

爆弾解除2

深海の蒼光 10/5 22:06~10/7 22:27

二つ目の補修工事現場に来た一行。爆弾の設置場所に目星をつけて、速やかに二つ目の爆弾も解体に成功した。同型の爆弾だったので構造の分析は省略することができた。

工事区画は全て見て回る必要があるとシモンが言った。残った三箇所以外にも、中央の支柱があるらしい。

五箇所の補修工事現場の爆弾を水に浸けてから中心部の爆弾を解除するには時間が不足しそうなので、全ての爆弾(重さ20。隠せない)を持ち歩きながら中央の支柱の爆弾も解除することとなった。二つ目の補修工事現場からでは中央の柱は目視できない。中央の柱は下層では市街地から伸びているが市街地に爆弾を仕掛けたのでは目立ちすぎる。柱の上層では補修工事現場から繋がっていて、そこに爆弾は仕掛けられるだろうとシモンは言った。

そこから**シーフ**総出で連続で四つの爆弾の解除を行い、全てに成功した。時刻は深夜の一時過ぎ。一行はそこから爆弾を処理するために貯水槽へと向かった。

(改題) 迫撃・サイコグーン!

深海の蒼光 10/7 22:28~10/10 23:43

解除した合計六つの爆弾を、**シモン・ハンス・アハト・フォルトゥナ・アロンザ・ルクレシア**で運搬することとなったが、後方から**デイビッド**の声が響いてきた。**アクシズ**の空洞内で変形した**ドラグーン**(**レプラグーン?**)に乗っている。

デイビッドは一行を王国の犬と決めつけ、制裁を宣告した。**デイビッド**に爆弾のことは聞いていないと言ったシモンだったが、シモンは**民兵**であるためそれを知らされなかったらしい。『あのお方』が爆弾を仕掛けたことを知ってしまった一行は、『あのお方』の心に土足で踏み込んだと**デイビッド**は言い、爆弾設置の指示をしたのが**ウルフ**である可能性が高くなった。**デイビッド**の**EGG**までの**相対距離**は**30m**。

逃亡の条件（戦闘中に明示された条件含む）

デイビッドのEGGからの3ターン分の攻撃を受けなければならない。エレベータが目視できる状態でテレポートをすれば2ターンで済むが、8人全員をテレポートさせる必要がある。（最低でもテレポートを使用できる人数が3人必要）

爆弾は筋力20以上であれば一人で運べる。20未満なら二人で筋力合計が20以上になるなら二人がかりで運ぶことができる。爆弾を持っている人が被弾してダメージが1でも通ると、全員が完全防御無視属性の質量（物理？）ダメージ150を受ける。実質全滅となる。

煙幕や閃光弾を使って攻撃の阻害は可能。反撃でなければ逃げながら使用することができる。他にはチャフや霧を散布することも有効。ビームを散乱させるために水の膜を張ることも有効。熱砂のカードは煙幕代わりに使用することが可能。スカフフォールドによる階段は遮蔽物として使用可能。装備を使っての遮蔽はタワーシールド以上の大きさが必要。

アリーヤがショットガンから煙幕弾を発射。その隙に一行は逃亡を開始した。

攻撃1 アリーヤの張った煙幕が有効。デイビッドは一行を視認できずミサイルを撃てない。マシンガンが発射してきた。標的は、アロンザ、コレット、セフィ、ルクレシア。
アロンザは回避に失敗。コレットはステップインで回避成功。セフィはライトニングアウェイで回避成功。ルクレシアは回避に失敗。アロンザとルクレシアはプロテクトアミュレットを使用して起爆を逃れた。

攻撃2 アリーヤがショットガンで煙幕を張り、セフィがビームを散乱させるためにシャワーで水を散布、ミズキがスカフフォールドで遮蔽物を作った。
デイビッドは一行をまとめて攻撃しようと大口徑ビーム砲を発射してきた。ビームはシャワーにより散乱させられて弱体化。ルクレシアとアロンザが回避に失敗したがマジックアミュレットにより起爆を逃れた。

攻撃3 視界にエレベータが入り、テレポートによりエレベータへの直接移動が可能となった。アリーヤがシモンとルクレシアを連れてテレポートでエレベータまで跳躍。セフィが熱砂のカードで煙幕を張り、ミズキがスカフフォールドで遮蔽物を作り、コレットが水飛沫で水の膜を張った。
デイビッドは煙幕で一行が視認できないのでマシンガンと大口徑ビーム砲とミサイルによる当てずっぽうな一斉射撃をかけてきた。
マシンガンはスカフフォールドで止まり、ビームは水飛沫により消散した。ロックオンしていないミサイルは運の悪いアロンザとフォルトゥナとコレットをめがけて飛んできた。アロンザとコレットは回避に成功、フォルトゥナは被弾してプロテクトアミュレットにより起爆を免れた。

デイビッドはシモンを裏切り者扱いして一行と一緒に殺そうとしたが、一行とシモンは何とか難を逃れてエレベータで降下した。エレベータでの移動中にコレットがルクレシアとアロンザに予備のアミュレットを渡す。エレベータを潰す気がなかったのか、デイビッドの攻撃はエレベータでの降下中には無かった。しかし、地下水脈（貯水槽）への道は崩落していた。これはデイビッドの仕業か？

打開するには

深海の蒼光 10/10 23:43~10/12 21:39

貯水槽で爆弾を処理できない以上、速やかにどこかで爆弾を爆発させる必要がある。シモンが、代わりにレプラグーンを渡すからゲタ（88式グーン）に爆弾を乗せて飛ばして破壊するしかないと言う。大規模崩落の危険があるためイグザベーションで瓦礫を突破することはできない。

ゲタがないと全員での移動ができなくなるが、シモンは行きたい場所があるなら必ず連れて行くと約束をした。アクシズの市民たちはまだ危険なので状況をメイフィリアに報告する許可をシモンから貰った。

ゲタには自動操縦モードがあり、プログラムをすれば真っ直ぐに飛ばすことは可能。ただし、ポーンで途中までゲタの上に乗って行く必要がある。ポーンのパイロットにはコレットが志願した。ポーンにはもう一人乗ることができる。メイフィリアに状況の報告をすることが、ブラックスター行きに悪影響を及ぼす可能性もある。

一行はポーンとゲタの前に着き、ゲタに爆弾を積載した。シモンによるとブラックスター襲撃はフォックス・ハウンド全軍で行うはずだったようだが……………？

そこに再びデイビッドのEGGが迫ってきた。ハンスとシモンがレプラグーンに乗り込みデイビッドを迎え撃つ体勢になり、同時にセフィとコレットがポーンに乗り込み爆弾処理と通信に備えた。

逆襲のデイビッド

深海の蒼光 10/12 21:41~22:39

デイビッドの乗機は専用改造型レプラグーンで、その名もサイコグーン。ワイヤーを介して伸びた腕が精神感應兵器のような動きをみせる。ハンスが周囲を見るとレプラグーンがたくさんある。下手に射撃戦をすると弾薬の誘爆は発生しそうだが、シモンによると格納庫は多少は頑丈で飛行してしまえば多少撃っても問題はないようだ。サイコグーンに攻撃を仕掛けたり支援のための歌を歌うと、サイコグーンの攻撃対象になってしまい、ゲタに攻撃が命中すると半径100mに致命的な損害が発生する。迂闊に手が出せない状態となった。

ハンスとシモンが戦っている間にセフィとコレットはポーンをゲタの上に乗せて爆弾を処理する準備を始める。プログラムを打ち込んでおくコレット。

シモンのレプラグーンは変形して飛び上がり、サイコグーンにミサイルを発射するがどれも当たらない。鉱山を潰しても良いのかとデイビッドを問い詰めるシモン。デイビッドは『あのお方の意志なら』何人殺しても構わないと言い切った。サイコグーンはワイヤーで繋がった腕を伸ばして精神感應兵器のような使い方をして一瞬でシモンのレプラグーンを撃墜。墜落したところで何機かのレプラグーンが誘爆して迂闊に近づけなくなった。（今回は消火活動は戦闘終了後にしかできない）

1ターン目

ハンスはメガビーム砲でサイコグーンを撃つが惜しいところかわされた。反撃の有線ビーム砲（精神感應兵器扱い）によるオールレンジ攻撃。3発のうち1発を躲したハンスだったが、2発の命中弾は胴体に集中し半壊状態となった。（オールレンジ攻撃の場合、被弾は全て強制的に胴部に当たる）

2ターン目

後がないハンスはミサイルを発射。これがサイコグーンを捉えて全弾命中。ハンスはサイコグーンを戦闘不能状態に追い込んだ。

ハンスとデイビッドが戦闘している間にゲタの上に乗ったポーンは上昇を開始。セフィとコレットは格納庫から上空に出た。しかし――

赤狼の狙い

深海の蒼光 10/12 22:42~23:09

アクシズの上空に出たゲタとポーンだったが、正面にはウルフの乗機、レッドドラグーンがいた。

通信を開くのかゲタを射出するのかを手間取っている間にレッドドラグーンが先制のビーム砲を撃ってきた。コレットはゲタを蹴ってブースト回避を試みるがビーム砲は命中。ポーンのシールドが半壊した。ゲタはそのまま前方に飛び続ける。

デイビッドは爆弾を積んだゲタを取り逃がし脱出されたことをウルフへと報告。ウルフはデイビッドに確認をする。

ウルフ『確認し、発砲した。仕掛けられた爆弾は解除され、それをもって逃げられた挙句、あのゲタの中に爆弾を詰め込まれて射出された。それでいいな？』

肯定し叱責を覚悟したデイビッドだったが、ウルフは叱責をせずにデイビッドを労ってからビーム砲でゲタを撃墜。大爆発が起こった。ウルフは何故かポーンに攻撃を仕掛けてこない。
そこに何処かから通信が入ってきた。

??? 『……おい、今の光はなんだ。予定になかったはずだが、ウルフ』

ウルフ 『申し訳ありません、閣下。どうやら仕掛けた爆弾をホオヅキの英雄に見つけられてしまったようで。うまくいきませんでしたな』

??? 『……な、なんだと！ おい、それではアクシズはおちんではないかね！』

ウルフ 『そのようですな、面目ない、私もよく見張っていたのですが』

??? 『ばかな…！ 万事うまくやれといったではないか、メイフィリア王女を失脚させ、セピアを蹴落として元老院が主導権を握るためにお前を送り込んだのだぞ』

ウルフ 『いや、面目ない、しかし戦場は何が起きるかわかりませんからな。では、閣下、私は「役を演じ」なければなりません。ヘイ・シンの制圧と、過激派テロリストの解放を行います』

??? 『…！？ふざけるな、やつらは入れたままにしておけ！そんなことは命じておらん』

ウルフ 『ははは、何をおっしゃいます。今回はしくじりましたが、もう一度やりなおせばよろしい。ここで計画をとめると私が疑われますからな。それでは閣下。テロリストは解放されますが、責はどうぞご自身でお取りください』

ウルフは通信を切るとデイビッドに命じてヘイ・シン（ブラックスター）襲撃へ出発することを命じた。アクシズのレプラグーンが大挙して発進していく。

still in the "dock"

深海の蒼光 10/12 23:10~10/13 0:33

格納庫の中はブラックスターに向けて出発するレプラグーンと消火活動をする人員で慌ただしい雰囲気。撃墜されたシモンは脱出装置で脱出できたが、脚を複雑骨折して動けなくなっている。シモンはレプラグーンなら何機か持って行って構わないと言うが、テレサを含めた一行は既に8人。EGGを操縦できるのはハンスとコレットのみで全員を輸送することができない。レプラグーンにコンテナを乗せて行く必要がある。

デイビッドも一行も上手くウルフに騙されていたようだ。彼はいつもそうだというシモンはウルフの代わりに一向に侘びた。セフィはシモンの脚の怪我を神聖祈祷で治療。シモンを助けてもらったので整備兵たちは一行に協力してくれるようになった。整備兵たちに甘えてレプラグーンへのコンテナの増設を行ってもらい、必要な物資も用意してもらえることになった。

一行は宿で寝ているテレサを回収し、全員分の食糧と水を補充。同時にメイフィリアに向けて暗号電文を送信した。

『バクヤクショリセイコウ ケントウライノル』

寝ぼけているテレサは一行から事情を聞くと、このままではウルフと通信していた相手により攻撃を受けアクシズがもうすぐ火の海にされると予言し、メイフィリア王女もどうすればいいか混乱しているだろうと推測した。

アクシズの一般市民を虐殺から救うためにはメイフィリアに動いて貰う必要がある。そこで状況をメイフィリアに説明し説得することとなり、通信を開いた。

セフィ『――殿下、火急の要件が。其方も混乱が起こっているかもしれませんが。此方ホオヅキのセフィです』

メイフィリア『爆弾解除の通信はもらったよ。ご苦労だったな。今、何故か出撃命令と、急にカラドブルグへの増援要請がでたのだが…』

セフィ『ええ。その件に関しまして。恐らく、というか十中八九、裏工作を行っていたものが、破れかぶれにこの場所を破壊しに、軍を動かそうとしているのかと』

メイフィリア『あのまぶしい光はなんだったのだ。お前たちはなにか事情を知っているか』

セフィ『あれは仕込まれていた爆弾を外で処理した際の爆発です』

メイフィリア『なんだと、じゃあ、あの爆弾はウルフ達がアクシズを破壊するための工作ではなかったというのか？』

セフィ『殿下の失脚を狙い、セピアさんを陥れ、権力を得ようと動いている方がいるようで。恐らくは、別の何者かに指示されていたことだと思われます。上手く手のひらで踊らされました――が、踊りっぱなしというのもしゃくに触ります』

メイフィリア『叔父上か…なるほど、あの人なら考えそうなことだ』

セフィ『……混乱に乗じてなれば、犯人の目星も……既についているようで重畳です』

メイフィリア『アクシズの民衆を皆殺しにして口減らしし、私に汚名を着せ、かつ、自分たちはのうのうと……お見苦しい』

セフィ『が、このままではアクシズの民との融和の前に、この場所自体が火の海と化すでしょう。そしてそれが為されれば、アクシズの民との融和が遥か遠のいてしまいます』

メイフィリア『事情は分かった。すまない、黒幕が叔父上だとすると、私はあの人の暴挙を止めることが出来ん。色々と王家も複雑なのだ。現状私達にでている出撃命令は私が止めよう。少なくとも、いま私が従えている兵団は叔父上よりも私の言うことを聞く。だが、多分二時間後にカラドブルグからくる大増援部隊は私には止める力がない』

セフィ『……ふむ、ではメイフィリア殿下。それを差し引いて。此方に向けられる兵力は如何ほどと推測しますか？』

メイフィリア『おそらくポーンが200、ナイトが70、ビショップが20、キングが1というところだろうな。叔父上ならそのぐらいは動かす』

セフィ『では、化かすことがとても上手な元帥殿に知恵を仰ぐのは？』

ここで、ウルフと何者かの通信記録をメイフィリアに送信する。メイフィリアの叔父が悪事を企てた証拠となるはずだが………？

メイフィリア『大本営の通信機じゃなければ、ココからカラドブルグまでは通信が届かんのだ。大本営には叔父上がいてな。もうアクシズは明朝までには必ずおちる。住民を逃がすしか道がない』

セフィ『――現状、アクシズ内の軍用基地も中で暴れた方のおかげで兵力が大変少ないですからね…どうしたものか。……失礼、仲間が件の裏方との通話傍受のデータを送ったようで』

メイフィリア『分かった。ログは確かに受け取った。すまないな』

アクシズの住民たちを救うためには、あと2時間ほどで住民を避難させる必要がある。警報を鳴らせば市民たちを起こすことは可能。避難は残っているレブラグーンと大型コンテナを使用すれば可能なようだ。

街の住民にメッセージを送るにはウルフがプロバガンダ（宣伝）に使っていた大型スクリーンが使えるが、そのためには街中の演説台まで行く必要がある。しかし、全住民に言うことを聞かせるためにはシモン程度では不足で、ウルフほどのカリスマが必要となる。誰が言えば良いのか？

シモンはメイフィリアとセフィの通信でのメイフィリアの言葉を聞いて彼女に対する評価を変えていた。一方メイフィリアは自分が土下座をしたくらいでは民衆は許さないだろうと言っていた。メイフィリアはレーザー通信が可能なほどの距離にいるので来てもらうことはできそうだ。

セフィ『――失礼。少々状況の確認を。……殿下、唐突ではありますが。この場に来て、アクシズの民へ声をかける覚悟はおありでしょうか』

メイフィリア『なんだって？ 私なんか声をかけて何になるんだ。私は憎まれこそすれ、民に慕われる存在ではないが』

セフィ『少し前、殿下は頭を下げて許されるものならば、とおっしゃっていました。それを聞いたアクシズの、レブラグーンを駆る一人の兵士が、自分は王族を誤解していたのかもしれない、とつぶやいておりました』

メイフィリア『無理だ。許されるわけがない。言ったって解ってもらえるわけがないだろう』

セフィ『憎まれているというのであれば。その上で今一度アクシズの民と手を取り合いたいというのであれば。いずれにせよ、避けては通れぬ道です』

メイフィリア『我が王家は、アクシズの民を見捨てたのだ。言ったって解ってもらえるわけがない…今更赦してもらおうなどと、虫の良すぎる話ではないか』

セフィ『では殿下。殿下は「実際に謝られて」、「その反応を見たこと」があるのですか？民草は不安なのです。自分たちは国に捨てられたのではないか。ならば自分たちの家族は自分たちで守るしかない、と』

メイフィリア『それは、無い。やっても無駄だろう。それは、化け物になった相手の心に語り掛けるようなものではないか』

セフィ『私たちがアクシズを救う際。この場をつぶさぬことで交渉の場を、鋼鉄王女に準備するためであったのですが』

メイフィリア『……』

セフィ『――殿下。知らぬからこそ。知らぬからこそ相手を化け物としてしまうのです。殿下が彼らを化け物になってしまった、というように。彼らは国こそが化け物になってしまったのだと思っています。――否。それは否なのです。知らぬだけであり、双方とも心を持った人なのです。踏み出さずして、どうして互いを知ることができましょう？』

メイフィリア『そうだな、お互いに私達は相手を化け物だと思い込んでいるのかもしれない。お互いにただ解っていると言えばそれで済むだけの問題なのかもしれないな。解った。どうなるかは分からないが、話してみよう。そちらに行く。ハッチを開けてもらえるか？』

セフィ『迎えは、此方のポーンで急ぎ。流石に殿下の機体は目立ちが過ぎます。……先ほど申した通り、この地は、殿下以外の国の者によって消される寸前です。……ご英断、ありがとうございます』

メイフィリア『そうか、では迎えを頼めるかな？ 場所を決めて待ち合わせしよう』

セフィ『此方で通信をつないでくださった方が乗ってゆきます。場所は……、そちらの座標を送っていただければ』

セフィは格納庫の兵たちに王族が謝罪に来るので準備としてハッチを開けることと、大型スクリーンの準備をお願いした。メイフィリアからは待ち合わせのポイントが指示され、そこに迎えを出すこととなった。

整備員たちはメイフィリアに対して良い印象を持ったようで、上手くいけると口々に言っている。シモンも張り切って動こうとして失敗。添え木と松葉杖を与えられて動けるようになった。

整備兵たちにポーンのシールドの交換と運搬用コンテナの用意を改めてお願いすると、整備兵がポーンに運搬用コンテナを取り付けて、変形したレプラグーンをゲタ代わりにして運用するプランを持ってきた。パイロットが二人必要になる。

王女の謝罪演説

深海の蒼光 10/13 21:22~22:08

コレットがメイフィリア王女との待ち合わせ地点に向かい、王女をアクシズに連れてきた。

既に警報は発令されて住民はウルフの言葉を聞くために集まってきている。シモンは口ではまだメイフィリア王女を信頼はしていない様子。メイフィリア王女にアクシズの住民に避難行動を起こしてもらうための説得を欲しいとお願いして、メイフィリア王女は一行が一応護衛する中で演説台へと向かった。

大型スクリーンに映ったのがウルフではなくメイフィリア王女だったことに住民たちは驚いて動揺している。そうした中でメイフィリア王女の演説が始まった。

メイフィリア王女の演説

動揺していると思うが、まず最初に言わせてもらう。私は知っての通り、メイフィリア・フィナンデ・フォン・マレーンだ。私は今回単独で馳せ参じた。武器の一つも持ってはいない。私は刃を持ってここにやってきたわけではない。ただ危険が迫っていることを知らせに来た。

明朝、このアクシズは火の海になる。何故なら本国から、諸君らを滅ぼさんと、軍がやってきているからだ。

私がそれを抑えられれば良かったのだが、申しわけない、力不足でそれが出来なかった。

なぜなら、諸君らを滅ぼさんとしているのは、我が叔父である、ガナルドリア公爵一派によるものだからだ。

彼らは策略により、このアクシズを爆薬で崩さんとしていたが、それは未然に冒険者の手によって阻止された。

諸君らはその爆薬も我らマレーン軍がしかけたと思うかもしれない。それは良い。

しかし、その失敗を知った公爵一派の強硬派が、現在このアクシズを落とそうとしている。諸君らも知っての通り口減らしを行うという、ただそれだけの為にだ。

私はそれが我慢ならない。王族として、国民を思う一人として、そのような暴挙は決して避けなければならないのだ。

ここで、アクシズの住民たち（男性）が怒りの声をあげる。ざわつく住民たち。

諸君らの言動尤もである。返す言葉もない。だが信じて欲しいのは、諸君らの身を軽んじているのは王家全体の意思ではない。

少なくともこの私は、諸君らを助けることのできなかつた私は、諸君らに償い切れるものではない責を感じている。

諸君らの怒りは十分に知っているし、解っている。何もできないが、今までずっと理解してきた。だからこそ、諸君らの怒りの前に出るといことが恐ろしくて耐えられなかった。

王家は必ず私が掌握する。少し時間はかかるかもしれないが、王家ではない、私をどうか信じて欲しい。そしてふがない王家をゆるしてほしい。この通りだ。

メイフィリア王女が観衆の前で地に頭を伏せた。土下座の姿勢。会場は静まり返った。
それでも文句を言おうとした男性が女性（妻と思われる）にフライパンで頭を殴られた。
女性の観衆は皆メイフィリアの味方になっていた。アクシズの家庭では女性の方が発言権があるようで、シモンがアクシズの民意は会議室ではなく台所で決まるとまで言い切った。ざわついていた観衆もメイフィリアの言葉を受け入れる方向になる。
シモンが避難の開始を指示し、住民たちの避難が始まった。避難は1時間もあれば完了しそうだ。

出発前のひととき

深海の蒼光 10/13 22:08~23:48

住民の避難で一行が手伝うべきことは無かった。メイフィリアが感想と感謝を口にする。
メイフィリア『話せばわかってもらえる、そんな言葉は只のちんけな世迷い事だとおもっていた。……が、話さなければ、解ろうとしなければ判らないこともあるんだな。相手を化け物と思わず、只近づいて、解っていると言葉をかけるだけで、人の心が動くとは。やれ、私もまだ若い、学ぶことは多くありそうだ。いろいろと前途多難だが、協力をしてくれて申し訳ない。ホオヅキにはまた大きな借りが出来たな。全国民に代わって礼を言う』
シモンは一行の心配をして、一行に出発を促した。メイフィリアを元の場所に戻そうと提案したがそれは遠慮された。自分にはできないことはないかと逆にメイフィリアに言われて、口ごもる一行。当たり障りのないことを言うと、メイフィリアは一行が何かをやらねばならぬことを察して、具体的にどうするのかと聞いてきた。
どうすべきか悩んだ一行だったが、『どうせ解ってもらえない』と思い込んでは何も進まないことを目の当たりにしたばかり。言って解ってもらえるかは分からないが、正直にクリムゾン・アイを連れ出すことを打ち明けた。
困惑した表情でホオヅキのすることに呆れた様子のメイフィリアだったが――
メイフィリア『ゴブリンの帝国にかかわって、相変わらずホオヅキっていう連中は訳の分からないことを行っているな。まあ、解った、「クリムゾン・アイ」は黒星の混乱に乗じて脱走を図り、行方が分からなくなった。それでいいな？』
何もかも不問に付すと、メイフィリアの言質をもらい、彼女に感謝する一行。セピア元帥にもとりなしてくれるようだ。
一行はさらに補給物資としてメンタルポーションをもらい、その場で飲んでTPを全回復し、途中でセフィが消費した分のメンタルポーションも補充してもらった。加えてマレーン正規軍より20点魔唱石を三つ受け取り、セフィに二つとハンスに一つを配布した。
用意したレプラグーンとポーンに乗っていけば、5時間ほどでブラックスターかカラドブルグに到着する。その頃には朝になっているだろうと整備員にアドバイスを貰った。
テレサにブラックスターの周囲に拠点にできそうな場所はあるかと聞いたが、周囲は隠れられるところのない荒野なので、すぐに必要なことをして立ち去るのが良いと言われた。
ブラックスターまでの道中で一行は睡眠を取れるが、EGGを操縦するコレットとハンスだけは連続して動かなければならない。コレットはホムンクルスの身体に戻り睡眠を不要にするためリメイカーを解いてもらい、移動に備えた。

火の海の黒い星

深海の蒼光 10/13 23:49~10/14 22:38

5時間をかけてブラックスターに到着した。ブラックスターは火の海になりEGGが入り乱れて戦闘中。ブラックスター内部でもエッグが戦闘を繰り広げている。
テレサによるとクリムゾンアイの牢は五番牢で、奥の方にあるという。広い裏庭があるのでそこに着陸すれば近いようだ。ポーンからでも裏庭は視認できる。しかし、突破するためには弾幕を潜る必要があるようだ。裏庭に降りるには三つの方法が考えられる。

中庭（裏庭？）に直接降下する。

コンテナのみ降ろして後から回収する。

魔術で落下制御をしながら高高度降下を行う。

しばらくリスク計算をしていた一行だったが、運に任せてEGGごと直接裏庭に降下を選択し、一気にブラックスターに突入した。ルクレシアの強運により、ほとんど敵に認識されることもなく着陸に成功。テレサの案内ですぐに中に入る扉が見つかった。一行はEGGに残るハンスとコレット以外の全員でブラックスター内部に潜入することとなった。

機体を壁に寄せて発見されにくくするハンスとコレット。

内部で必要そうなアイテムの、バブルガムと手紙をセフィが、輝きの鍵をルクレシアがそれぞれ受け取って内部への突入を開始した。

ヘイ・シン潜入

深海の蒼光 10/14 22:43~10/15 0:03

テレサの先導でブラックスター内部を進む一行。ブラックスター内部に収監されているのは凶悪犯よりも政治犯が多くあまり脱獄が発生せず、外部からの囚人救出を防ぐ方に重きをおいて警備されている。内部は外からの襲撃を想定して迷路のように入り組んでいるが、テレサの案内によって迷わずに進むことができた。

政治犯たちは第三階層に収監されているようで運が悪いと誰かと遭遇する可能性がある。クリムゾンアイが収監されているのは第七階層とかなり深い。

強運の一行は第三階層まではほとんど遭遇も無しに進むことができたが、ここで大きな足音が聞こえてきた。そのままでは遭遇してしまうが、一行は全員が魔術（エンチャント・ハイド、インビジブルエア）とアイテム（ステルスクローク、隠れ蓑の複製品）でそれぞれ姿を消すことでやり過ごすことができた。通り過ぎていったのはエッグを着た一団だった。

そこを過ぎると全く誰にも遭遇すること無く第七階層にたどり着いた一行。

目の前を大きな鉄の扉が阻んでいる。魔術による封印がかかっていてそのままでは鍵穴に触ることすらできない。

セフィが魔術で封印を解除して、嚴重な鍵を輝きの鍵で突破。あとは鉄の扉を開けばクリムゾンアイとの対面となる。

皇帝

深海の蒼光 10/15 22:19~23:52

扉の奥には呪符がベタベタと貼られた鉄格子があり、そこに瘦せぎすのゴブリンが座って本（バイブルのようだ）を読んでいる。ゴブリン帝国の前皇帝クリムゾンアイだった。頑丈な手枷足枷がついている。

セフィ『……さて。少し明かりを失礼しますね。——失礼、そのままですと、文字が読みづらくありませんか？』

クリムゾンアイ『明かりをともしないといけない面会者は久しぶりだ。明かりを灯すならば高い所だ。救い主曰く、低いところに明かりを灯すのはいけないことらしい。ベッドの下の物を探すときはどうするつもりなのかな』

テレサ『お久しぶりです。クリムゾン・アイさん』

クリムゾンアイ『おや、誰かと思えばテレサ嬢か。面白い本をありがとう。退屈しないで済んでいるよ』

セフィ『夜目が利かぬものですから。低いところに明かりを灯してしまえば、そこで生きる者が辛い思いをするでしょう？——名乗り遅れました。セルフリアと申します。貴方がクリムゾン・アイ氏で間違なく？』

クリムゾンアイ『いかにも、私がクリムゾン・アイだ。紅目でもいい。牢にとらえられた化け物にとっては名前などどうでもよい話だろうがな。テレサ嬢と一緒に居るといことは、お前たちはホオヅキの冒険者か。私を捕まえたあのお嬢さんは元気かね』

セフィ『――さて、**化け物は貴方が、それとも私たちか**。少なくとも私たちはあなたの興した国を見て、民の話を聞き、多少なりとも知ることはできたと思いますが――（あのお嬢さん=マールは）とても元気になっていますよ。最近は何の遊び場を見つけたのか、船には顔を出しておりませんが。』

クリムゾンアイ『その様子だと私の手紙は本国に届けてくれたようだな。私の愚弟は元気だったかね』

セフィ『……此度はまずは、お預かりした手紙を弟君に届けることが出来ておらず、申し訳ありません。そのことについて、出来れば助力を願いたく』

クリムゾンアイ『帝国まで出かけて行って、手紙を渡せず、そして私が必要な。なるほどな。まあ、**大体想像していた通りになった**ということか』

セフィ『届けるよう、伺いはすれど。王城をはじめ、複数個所が異界と化しております。……弟君もその中に閉じ込められているものかと』

クリムゾンアイ『**大方国の一部が妙な空間に飲み込まれ、王城も丸のみ、私の愚弟もその中におり、人間の冒険者が募られたが、彼らは異界の攻略に入ったまま帰ってこない。彼らの秘密のやり取りに使われている暗号が我が国の暗号文で、それを読み解けるのは私だけ。そんなところかな**』

セフィ『――いかにも。流石の洞察力恐れ入ります』

クリムゾンアイ『少し考えたらわかることだ。遅すぎるぐらいだよ。お嬢さん。**むしろ良くこうも長い時間あの国が持ったものだと感心している**ところだ』

セフィ『閣下の臣民に於かれましては、大半が教えを忠実に守り、己の為すべきことを行っている様子』

クリムゾンアイ『私の臣民は、私の想像していた以上に忍耐強かったようだ』

セフィ『ですが、矢張り閣下に戻ってきていただきたい、という気持ちは強いようです。……**此処まで厚い信頼を得られる治世者は、そうはおりますまい**』

クリムゾンアイ『やめたまえ、**私は君たちの王ではない。敬語で話される覚えもない。私はゴブリン、お嬢さん方から見れば只の妖魔、つまり化け物だ。軽蔑し給え、もっと。私とお嬢さん方は敵なのだからな。人と化け物は対話は出来んよ**』

セフィ『「**妖魔は妖魔たれ、決して文明を与えてはならない**」、という考えの元、でしょうか』

クリムゾンアイ『おや、良く知っているな。**天秤の騎士の言葉**を引用するとは』

セフィ『私は**敵であれ、尊敬すべきところがあるならばそれを敬え**と教えられています故。……今こうして、会話は成立しているではありませんか。これでも、私も本の虫ですので。此度の事の発端、確たる証拠は見つけられていませんが――。**この予言が発端となっているのでは**、と思いましたが故』

クリムゾンアイ『さて、**会話は成立しているように見えて、それは見えるだけかもしれん。言葉として理解できてもその意図が理解できないことがこの世には多すぎる。ああ、多すぎるのだ。特に神とかいう存在の意図が、私には全く読めん。まあ、発端というか、事情を知って吐いた言葉というか。同じと言えば同じか**』

セフィ『目の前で「神を作られた」身としましては……些か考えさせられる話ではありますが。これでも私も、いちブリストなのですけれどね。——言葉と意図を伝えるに最も単純な方法といえば、飾らず、極力単純に——、とはなりますが。見せかけだけだと思ふのであれば。解らぬことだというのであれば。時間があれば、それこそ話し合うべきなのでしょうけれど——あなたは何を求めて、この地に來たのでしょうか』

クリムゾンアイ『……まあ、お嬢さん方はこんなところまで私と問答してきたわけではあるまい。上の方が騒がしい。時間はなさそうじゃないか。私の身柄の確保をするのが第一目標かね？』

ここでミズキが上層の方の音を聴いたが、かすかな音が聞こえるのみだった。

セフィ『ご尤も。単刀直入に言えば、私たちはあなたをここから脱獄させたい。そして、暗号解読に手を貸していただきたい。第一目標とだけ言えば、暗号の解読です。が、あなたの臣民に依頼をされました。貴方を助け出してほしい、と。故に、読書を中断させてしまい申し訳ないのですが。一緒にゴブリン帝国まで戻っていただけませんか』

クリムゾンアイ『しくじり、行方不明になり、世情が混乱しても尚、私を必要としてくれるのか。私も良い民に恵まれたものだ。私が嫌だといっても、私は囚人の身だからな、まあいいさ、どこへとも連れて行くがいい』

ここでもう一度輝きの鍵を使い鉄格子の鍵を開け、クリムゾンアイを牢から連れ出した。輝きの鍵は輝きを失ったが、ルクレシアが引き続き所持する。

セフィ『枷を外すだけの時間は、この場ではありません故。暫しそのまま耐えて頂きたいです。何か持ってゆきたいものは？』

クリムゾンアイ『別にかまわんさ。私は囚人なのだからな。ああ、そうだな、一つ許されるなら、そこにある本。聖書だったか？ それをもっていつてはくれんかね。まだ読んでいる途中なんだ』

一行は牢を出て、扉を再封印すると脱出を開始した。第七階層から第三階層までは何かに遭遇することもなく進んでこれたが、第二階層への階段付近でエッグの兵士が道を塞いでいた。テレポートを使ってもエッグの兵士には気づかれてしまいそう。ここで、ルクレシアが歌で兵士（フォックス・ハウンド側だった）を幻惑して味方だと思い込ませ、別の場所へと追い払うことに成功。そこから強運の一行は裏庭への入り口まで誰にも遭遇せずにたどり着いた。

狐王元帥の黒い壁

深海の蒼光 10/15 23:52~10/16 22:49

裏庭では、クリムゾンアイを救出に行った一行とは対象的に凶運のコレットとハンズが、何故か発見されてEGGで激しい戦闘を繰り広げていた。数的に劣勢で負けはしなさそうだが、一行の脱出を支援できる状況ではなかった。EGGとコンテナを使って脱出するという目論見は水泡に帰した。

脱出するには裏庭の壁を乗り越える必要があるが、高さ30mの黒い壁が邪魔をしている。しかも壁には魔術処理が施され、スカフフォルドなどでトンネルなどを作ることはできず、ロープによる登攀も不可能なものだった。しかも、飛行して乗り越えようとするとトリモチ弾が飛んでくるらしい。コレットとハンズは敵EGGへの対応で忙しくビームランチャーで壁を破壊することもできない。どうやら壁自体がセピアが用意したひとつの魔法生物だったらしい。セフィがその魔法生物を識別した。

黒星 レベル15 魔法生物の類。ゴーレム等の技術を応用してつくられた内側への自動迎撃魔法生物。外側からはいつてくるものには寛容だが、内側から出るものには牙を剥く。登攀などを阻止するほか、トリモチなどで身動きをとれなくする。殺傷能力こそ低い、捕獲能力は非常に高い。（後から判明したが、エネルギー源を脱走者からドレインしたTPで賄っているらしい）

トリモチはミサイルプロテクションで防げそうに思える。ルクレシアが全員に飛行能力を付与する（フライングとして扱う）歌を歌えるので、それで脱出はできそうだ。

セフィとミズキで分担してトリモチ対策のミサイルプロテクションを展開、ルクレシアがエンチャントヴォイスで自身を飛べるようにしてから『君が彼方を目指すなら』と『星と夢と虹の世界』を歌い、術の消費を抑えながら全員で飛んで黒い壁を越える。壁からはトリモチが飛んできてミサイルプロテクションで弾かれながら魔力を食い破り、壁の真上で一旦風の結界が消失。そこでセフィが歌に乗せて再び全員分のミサイルプロテクションを展開。なんとか城壁の外にたどり着いた。

しかし、黒星の影響はなおも続く。全員が1ターンにつき3TPを壁にドレインされていた。外にたどり着くまでにかかった時間は50秒。そこからさらに80m壁から離れないとドレインが続いてしまう。そこで、ルクレシアが『走って走って走り抜いて！』と『にんにんニンジャ！』を歌って、全員がTP消費なしに疾走できるようにして自分も加速された通常移動を行い、ミズキを黒壁の射程外にレポートさせた。

これで、全員が黒星の射程外に逃れることができ、隙をついてEGGで脱出したハンスとコレットと合流した。

海岸へ

深海の蒼光 10/16 22:49~23:48

合流した一行は再びコンテナに乗り込み、レプラグーンとポーンで海岸に移動した。海岸で信号弾を上げると北東の方向から信号弾が上がった。ホムンクルスで不眠なコレットと眠くなってきたハンスが頑張ってカガチに着艦。カガチの方ではEGGで戻ってくると想定していたようですんなりと着艦した。一行はそのままビッグセブンへと向かう。睡眠不足だったハンスは無事に医務室に運ばれた。

ビッグセブンへの道中、コレットは気になっていたことをクリムゾンアイに訊いた。ゴブリン帝国の寄生虫騒ぎで変容しているのは被害者本人ではなく周囲の認知なのではないかとの疑問に、クリムゾンアイはそれは分からないが、こうなることは予め分かっていたという。それはどういうことなのか、クリムゾンアイは回答を保留した。

続いてコレットはクリムゾンアイの手枷を外そうとしたが失敗した。クリムゾンアイは周囲を警戒させないためにも手枷足枷は嵌めたままで良いと言い、冒険は異界への挑戦を前にひとまずの区切りにたどり着いた。

リザルト

深海の蒼光 10/16 23:49~10/17 0:42

経験点：30000

FP：40

知名度：30

経過週数：3週間

テオクリスタル：3個（3万人以上の生命を救った、強く感謝された、伯爵以上の人間を救った）

一行がアクシズ崩落を放置した場合、メイフィリア王女はアクシズ虐殺の汚名を着せられて暗殺されていたらしい。

マレーン外交部より、全員に見舞金（礼金）30000セレン

アイテム獲得宣言：

手紙、バブルガム×4、輝きの鍵（使用済）、隠れ蓑の複製品（残り1回）、ゲタ操縦マニュアル、ウルフとガナルドリア公爵の会話ログ、20点魔唱石×3（ちょっと使った）、近代化改修ポーン（ハイパーメガランチャー付き、運動性5）、強化型レプラグーン（運動性6）、ガチ勢情報（メモと日記帳など）、ゴブリン紙幣（クジラ売却分と各自両替分）

このうち、手紙はクリムゾンアイに返却、クリムゾンアイのバイブルは本人に返却。

ゴブリン紙幣は交易所で両替する場合は未流通貨幣として扱う。

強化型レプラグーンは量産型ドラグーンの運動性を6にして、ハイパーメガランチャー（威力70・10発）を追加したもの。ハイパーメガランチャーは破壊されたら修理不可能。換装により通常装備・局地戦装備・精神感応兵器試験型・狙撃装備に変更可能。どの形態に換装してもハイパーメガランチャーはついてくる。

近代化改修ポーンはポーンの運動性を5にして、ハイパーメガランチャー（威力70・10発）を追加したもの。ハイパーメガランチャーは破壊されたら修理不可能。

ポーンとレプラグーンは、完全に所有（ランニングコストが自腹）するか、所有権を保持してホオヅキに貸与（ランニングコストは無料）するか、ホオヅキに売却（50万セレン）から選べる。

EGGのランニングコスト：

所有にドックが必要（ダンジョンのゴーレムドック）、ホオヅキからリアル1ヶ月あたり5000セレンで借りることもできる。

メンテナンス維持費にリアル1ヶ月あたり1万セレンが必要。

一回出撃するたびに推進剤などのエネルギーに3万セレンが必要。

時系列	
1日目	両替など準備を整えてホオヅキを出発
2日目	
3日目	
4日目	
5日目	首都マルスに到着。ホワイトとユラと接触。クリムゾンアイを連れ出すことに。大浴場と劇場街で寄生虫出現。
6日目	ミンククジラを換金。ホオヅキに向けて出航
7日目	
8日目	
9日目	
10日目	ホオヅキに到着。エリザベートに経過を報告。クリムゾンアイとフォックスハウンドの情報入手。マレーンに出発。
11日目	
12日目	
13日目	カラドブルグの付近に到着。砂漠で降ろしてもらった。
14日目	カラドブルグに到着。街は戦場。ブラックスターへの移動中に追撃されるところをフォックスハウンドに拾われた。アクシズに入る。アクシズで何者かが仕掛けた爆弾発見。
15日目	爆弾撤去。ガナルドリア公爵の策が露呈。フォックスハウンドがブラックスター襲撃に出発。カラドブルグからアクシズ虐殺のための大増援が発進。メイフィリアの演説。ブラックスターに侵入。 EGGでブラックスターに移動。
16日目	カガチと合流。
17日目	
18日目	ビッグセブンに停泊中のホオヅキに帰還。
19日目	
20日目	
21日目	

固有名詞まとめ（人名以外）		
トキワソー	場所	芸術家とは名ばかりの夢想家たちが集まった一角。昼間から酒を飲んで地に足のつかない能書きを垂れていた集団のいる場所だったようだ。ゴブンザもトキワソーの一員だったことからそのレベルが伺える。
寄生虫	モンスター？	化け物に変化した者たちは便宜上『寄生虫に犯された』と称されていた。しかし、その体組織は全て『異常の無いゴブリン』のものだった。ゴブンザはラップでルクレシアに完敗してしまった時に、フィオレは長年花形だったのが主役を降ろされた時に、寄生虫の被害に遭った。被害に遭うための条件はまだ情報不足でよく分からない。
ガチ勢	集団	ジェイス以外に異界攻略に挑んでいる世界有数の冒険者たち。生き残りも少なくない。
マルス	地名	今回のメイン舞台のはずだった（?）。ゴブリン帝国首都。後半へ続く。

マレーン	国名	赤竜皇帝ヴォルケイノが起こした戦役の戦場になった国家。生活物資の供給を魔法工学プラントに大きく依存しているが、プラントのほとんどは首都を完全に奪還するまでは使用不能。ゴブリン帝国の前皇帝クリムゾンアイを収監している。意外にもエリザベートの手記では未紹介。 マルスからは快速艇キサラギで片道四週間。飛行艇カガチなら片道三日程度の距離。
カラドブルグ	地名	マレーンの現在の首都。フォックス・ハウンドの襲撃で戦場となっていた。ウルフによれば、現在の規模はヴォルケイノに破壊される前の1/4ほどで、過去の権力にしがみついた議員や王族と彼らに与した上級市民が住んでいるらしいが……。
ビッグセブン	場所	ホオヅキが現在停泊している海上要塞。マルスからカガチで一日、キサラギで三日の距離。
フォックス・ハウンド	組織	マレーンの過激派王都奪回運動。王都奪回よりも政情安定を優先しているセピア元帥を腰抜け扱いし、王都奪回を無理やり推めようとしている集団。実態は垂人（フォクシー）であるセピアが軍の頂点にいることに不満を持っている人間主義者たちとエリザベートから説明されていたが…。カラドブルグの市民からはテロリスト扱いされていて評判が悪い。シーフギルドには微妙に理解されている。
ブラックスター	場所	正式名称は黒星（ヘイ・シン）。マレーンの首都カラドブルグから東に徒歩で10日の距離にある大規模収容施設。収監されているのは政治犯が多い。クリムゾンアイも幽閉されている（第七階層の五番牢）。周囲20kmは隠蔽できないように荒野（平地）になっていて、脱走者はEGGやエッグで追跡されるため、出入りは非常に難しい。内部は外からの襲撃を想定して迷路のように入り組んでいる。ジャック・レズンをはじめとした大物政治家10人を筆頭に人間主義極右政治犯（実態はテロリストまがいのようだ）も収監（第三階層）されていて、それを脱獄させるため、フォックス・ハウンドの攻撃を受けた
ポーン	EGG	よく発掘される汎用EGG。性能が低いわけではないが大体やられている。魔法王国マレーンの軍のEGGの主戦力。（詳細は交易所を参照）
ナイト	EGG	ポーンよりも少し強いEGG。マレーンの正規軍に配備されているようだ。（詳細は交易所を参照）
量産型ドラグーン	EGG	フォックス・ハウンド軍の戦力になっているEGG（の素体？）。ポーンよりは性能が高い。カラドブルグからブラックスターまで半日あれば余裕で無補給移動が可能。（詳細は交易所を参照）フォックス・ハウンド仕様はさらにカスタマイズがかかっているらしい。
ブルードラグーンMK-IIカスタム	EGG	真っ青なドラグーンのカスタム機。鋼鉄王女メイフィリアが搭乗して活躍していた。（詳細は交易所を参照）

88式グーン	SFS (?)	マレーン正規軍のEGGが空中で足場になっていた空飛ぶ下駄のような機体。上に乗せたEGGの航続距離を延長することができる。本来は上に乗ったEGGから操縦できるが、88式グーンの中にもコックピットがあり直接操縦でき、けっこう広い居住スペースもある。自動操縦モードもあり、プログラミングすることにより真っ直ぐに飛ばすことは可能。
ウルフ・ハウンド	部隊	マレーン軍のEGG部隊。フォックス・ハウンドの戦力の中核になっていると思われる。
レプラグーン	EGG	最近になってEGGのブラックボックスが解析されつつあり、今はEGGの模造品が作れるようになった。そうして開発された先行量産型EGG。量産型ドラグーンよりも運動性が+3されている。
レッドドラグーン (仮)	EGG	ウルフの乗機。ヴォルケイノ戦で破壊されたレッドドラグーンカスタムをレプラグーンのパーツを使って修復し近代化改修したもの。
アクシズ (中枢)	地名 (?)	マレーンのカラドブルグとブラックスターの中間地点に作られた、大規模な落盤事故で放棄された鉱山跡を利用して作られた巨大な街。カラドブルグよりも大規模な街になっている。名前はこここそがマレーンの中枢であるという意味が込められている。落盤しないように定期的に補修工事(五箇所)がある。この補修工事場所と中央部の柱がアクシズの弱点になっている。プロバガンダ用に使う大型スクリーンがあるが、機器が固定式のため演説台に乗らないと映ることができない。亜人は下働きやきつい仕事をさせられ、手枷足枷首枷をつけることがルールになっている。何故わざわざ日光も届かず落盤したことのある危険な地下に街を作ったのか、意図は不明。ガナルドリア公爵の派遣した軍に破壊されたと思われる。
サイコグーン	EGG	デイビッド専用改造型レプラグーン。マシンガン、ミサイル、大口徑ビーム砲を装備し、さらに腕部がワイヤーを介して伸び、精神感応兵器のような運用が可能。精神感応兵器を使用した場合、命中した攻撃の命中部位はすべて強制的に胸部となる) 元ネタはこちら↓ https://dic.pixiv.net/a/%E3%83%8F%E3%83%B3%E3%83%9E%E3%83%B%E3%83%8F%E3%83%B3%E3%83%9E

ネームドNPCリスト

マゼンダ	ゴブリン帝国の現在の皇帝。前皇帝クリムゾンアイの弟。現在は王城ごと異界の中で安否不明。ホテルの執事によると、悪い人物ではないが、芸術を愛し、ゴブリン帝国の臣民は生真面目すぎるから、もっと自由に生きるべきだと、娯楽や奔放な生き方を推奨し、芸術や劇団への投資を行った。劇場で上演されていた卑猥な演目には援助をしていたわけではなかったが黙認していたようだ。
------	---

<p>クリムゾンアイ</p>	<p>ゴブリン帝国前皇帝。赤竜皇帝ヴォルケイノが魔法王国マレーンで起こした戦にゴブリン帝国を率いて参戦。冒険者が使った奥義をその場でラーニングして使ってみせたり、学徒動員されたゴブリン兵士を使った多彩な戦術により、レベルが高いはずの冒険者達や人間側の軍を苦しめた。当時、少人数で行動している時にホオゾキの冒険者によって発見され、撤退するところをマール単独による追撃を受け捕虜となった。以後はマレーンのカラドブルグから東に徒歩で10日の距離にある大規模収容施設『ブラックスター』に幽閉されていたが、公式にはフォックスハウンドのブラックスター攻撃に乗じて脱獄し行方不明になった。実際は冒険者にマレーン国外へと連れ出された。ガチ勢の残した暗号を解読できると思われる人物で異界攻略のキーパーソン。</p> <p>厳しすぎる人物だったが、25年前にゴブリン帝国を建国し、理知を知らぬ獣のようだったゴブリンたちに先進的な文化と文明をもたらし、（ゴブリン帝国の臣民の主観で）ゴブリンがゴブリンらしくあるべき姿で生きられるようになったという。ゴブリン帝国内でゴブリンが化け物に変化してしまう事件が起こったことが外征を決意した理由なのかもしれない。</p> <p>ブラックスターで彼と話したテレサによると、身の上については語らなかったが様々なことを憂いていたという。生命が生まれることの意味や存在の理由などを考えていたらしい。名探偵のごとく状況を推理するが、どことなく皮肉っぽい。神が存在する意図を測りかねているというが…</p> <p>牢から救出された彼だが、一行に自分を化け物として扱うように言い、周囲を安心させるために敢えて手枷足枷をつけたままにするように希望した。今の愛読酒はバイブル。</p>
<p>ゴブンザ</p>	<p>トキワソーの住民だったが異界に飲み込まれずに済んだラッパー。ルクレシアとのヴォーカル対決に敗れ、失意の状態で寄生虫が発動した。死骸からは異常の無いゴブリンの器官しか発見されなかった。</p>
<p>フィオレ</p>	<p>寄生虫被害の最初の犠牲者。ゴブリン帝国の劇団の当時のトップスター。その時に観客や舞台上の数名も犠牲になった。この事件がクリムゾンアイに外征を決意させたのかもしれない。寄生虫の被害に遭った当時、長年劇団の花形だったが若い才能に押されて、次の公演では主役の座から外されていた。相当落胆していただろうと推測される。事件が起きたのは主役公演の最終日だった。</p>
<p>ジェイス</p>	<p>今回の直接の依頼者。アンチ・マナを行使するために必要となる魔鉱石を求めてゴブリン帝国に入った。ホワイトとユラを足手まとい扱いして異界攻略中。</p>
<p>ホワイト</p>	<p>元ウォーロック。パティシエル教団の大幹部エリス・リトールにより殺害されたがその後復活。ゴブリン帝国に行く足がかりとしてビッグセブンに潜入しようとするも、乗り込んだ船が拿捕されてビッグセブンに囚われていたが、救出された。その後ジェイスを追ってゴブリン帝国に入った。マルス中央のホテルに宿泊中。異界から生還したものの展望ラウンジで項垂れていた。ジェイスから異界を攻略する戦いにはついていけないと言われホテルに置いてきぼりになった。世界最高の魔術師にしてはひどい目に遭いまくっている。</p>
<p>ユラ</p>	<p>深淵の帰還者。ゴブリン帝国に行く足がかりとしてビッグセブンに潜入しようとするも、乗り込んだ船が拿捕されてビッグセブンに囚われていたが、救出された。その後ジェイスを追ってゴブリン帝国に入った。マルス中央のホテルに宿泊中。異界から生還したものの展望ラウンジで項垂れていた。ジェイスから異界を攻略する戦いにはついていけないと言われホテルに置いてきぼりになった。</p>

<p>テレサ</p>	<p>食っちゃ寝聖女。GSには必ず配置されているレギュラー。（会えるとは限らない）定期的にマレーンに来て説教などを行っている。住民からの評判は良好。猫耳が可愛いらしい。カラドブルグからブラックスターへの移動中にフォックス・ハウンドに捕らえられ、アクシズで強制労働させられていた。ブラックスター内部では彼女によるナビゲーションが非常に有効だった。シリアスなムーブもこなせるが、GMにすら存在を忘れられるという仕打ちを受けた悲劇の聖女。</p>
<p>メイフィリア</p>	<p>魔法王国マレーンの鋼鉄王女。EGGを使ってはエースパイロット級のように、フォックス・ハウンドの強化量産型ドラグーンを相手に鮮やかな戦闘をしてみせた。ブラックスターに移動中に一行を追撃したが、フォックス・ハウンドに撃退された風を装って一行を泳がせることにした。元老院から出たアクシズの住民を虐殺する作戦に断固反対していた。アクシズの住民たちをカラドブルグに連れてきて養うことを考えているようだ。王家が見捨ててしまったアクシズの住民たちに許されないといいこんでいたが、セフィの説得により意を決してアクシズ住民の説得をやり遂げ、いつか王家を掌握するとアクシズの民衆に約束した。アクシズ虐殺を未然に防いだことができたので彼女は虐殺者の汚名を着せられることもなく死を免れた。名前をメイフェリアと間違っていて覚えている人が相当数いる。（自分も最初は間違っていて覚えました）</p>
<p>ガナルドリア公爵</p>	<p>メイフィリアの叔父で政敵。元老院派でアクシズの住民を虐殺してその罪をメイフィリアとセピアになすりつけることで失脚させようと企んだがウルフに裏切られた。爆破が失敗したことでカラドブルグからアクシズ虐殺のための大部隊を出撃させた。その後の動向は不明。</p>
<p>ウルフ</p>	<p>フォックス・ハウンドを率いるゲリラ屋。目に赤い宝石をはめ込んだ狼の被り物をしている。赤いドラグーンに乗っているのは彼。マレーンの人間主義タカ派貴族を資金源にしている。ブラックスターに収監されている極右タカ派政治犯（実際はテロリスト）たちを脱獄させるのが当面の目的。ホオヅキを敵にするのは避けたい。一行に色々主張はしたが、何を考えているのかよく分からない。シモンから見て間違ったことはしておらず理屈は通っていたらしい。元老院側に与するガナルドリア公爵からアクシズの住民を爆弾で虐殺するよう命令を受けたが、冒険者によって計画が失敗するように仕向け、ガナルドリア公爵を裏切ってブラックスター襲撃を執行した。その後の動向は不明。</p>
<p>デイビッド</p>	<p>ウルフの第一の側近。血の気が多く無茶をしがち。爆弾のことも知っていた。ウルフに心酔している様子。元々軍人だったらしい。ウルフ・ハウンド所属だった可能性が高い。マレーンの国軍だったのか傭兵だったのかは不明。シモン共々一行を始末しようと専用EGGサイコグーンで二度にわたり攻撃を仕掛けてきた。ハンスによりサイコグーンは戦闘不能となるが、すぐにブラックスター襲撃に出発した。</p>
<p>シモン</p>	<p>ウルフの第二の側近。40代後半で民兵出身。一行を監視していた。フォックス・ハウンドとアクシズの市民の気持ちを代弁した。彼はただ家族を食わせていきたいだけ。王宮側もブラックスターの議員も信じてはいない。ウルフのことは信じるしかないと考えていた。セフィとメイフィリア通信を聞いて考えを改める気になった。民兵出身のためウルフの計画の全貌は教えてもらえなかったようだ。デイビッドに裏切り者扱いされて撃墜され、脚を複雑骨折した。彼を助けると整備兵たちが協力的になったので、人望はかなりあるようだ。</p>
<p>ジャック・レズン</p>	<p>ブラックスターに収監されているマレーンの極右タカ派政治家で、政情の安定のためならば革新は必要ないと言い切ったことで有名。</p>

女海賊A	快速艇キサラギをメインで動かす。飛行艇カガチを飛ばすこともできる。さらに一行がホオヅキでエリザベートと話している間にカガチに防塵処理まで施した。
セピア	魔法王国マレーンの狐王元帥。コレットにクリムゾンアイに面会する許可を出した。亜人（フォクシー）が元帥として君臨することについて、人間主義者『フォックス・ハウンド』が反発。邪魔な人間主義極右政治犯をブラックスターに放り込んで政情の安定を図っている。ブラックスターには彼がデザインした脱獄を防ぐ魔法生命体を配置した。自ら耕作面積の拡大のために働いているらしい。アクシズの住民を虐殺する作戦に断固反対していた。マレーンでは行動に気をつけている彼だが、ホオヅキでフォクシーであることを隠しておらず、それが正体が本国にばれた理由らしい。
エリザベート	海洋帝国ティガールの第七皇女。一行にクリムゾンアイとフォックス・ハウンドについての外交機密情報を与えた。

収支まとめ

支出（全体）

キサラギ食費（10日分）	ハンス	200
ホテル宿泊費（ダブル：50ゴブ×3 シングル：30ゴブ×1）	コレット	180
シーフギルド（カラドブルグ）情報料	フォルトウナ・コレット	1600
合計額		1980

収入

ミンククジラ売却（ゴブ）	80000
マレーン外交部見舞金（礼金）	210000
合計額	290000

個人支出（セレン）

アリーヤ	ゴブリン紙幣両替	103000
	ワイヤー付き革財布	500
	合計	103500
アロンザ	ゴブリン紙幣両替	51500
	ワイヤー付き革財布	500
	合計	52000
コレット	ゴブリン紙幣両替	51500
	お菓子補充	640
	合計	52140
セフィ	ゴブリン紙幣両替	61800
	合計	61800
ハンス	ゴブリン紙幣両替	51500
	合計	51500
ミズキ	ゴブリン紙幣両替	51500
	合計	51500
ルクレシア	ゴブリン紙幣両替	103000
	合計	103000

ゴブリン紙幣残りまとめ

キャラ	合計	1000ゴブ札	100ゴブ札	10ゴブ札	1ゴブ札
全体	80000	80			
アリーヤ	100000	100			
アロンザ	50000	49	9	9	10
コレット	49820	35	129	172	200
セフィ	60000	59	9	9	10
ハンス	50000				
ミズキ	50000				
ルクレシア	100000				

入手アイテム（所持者はシナリオ終了時点）

手紙	クリムゾンアイからマゼンダ宛に書かれた（と思われる）手紙。暗号で書かれているので読めない。（初期状態で入手）（セフィが所持）
バブルガム	使い捨てのデコイ。ガムを噛んだ人物にそっくりな動く人形（人工生命体）を作り出すことができる。ただし、半日ほどしかもたない。4枚貰った。（ホワイトより）（セフィが所持）
輝きの鍵	外見は古びたボロっちい鍵だが、一つでどんな鍵でも三回まで開くことができる。88式グーンの起動とクリムゾンアイの牢獄の扉と鉄格子の鍵に使ったので、残りは零回。使い切った。（ユラより）（ルクレシアが所持）
隠れ蓑の複製品	外見はボロ布だが、かぶることで三回まで完全に隠れられる。ただし、動いているのがばれたら見つかってしまう。アロンザとテレサが一度ずつ使ったので残りは一回。（ユラより）（アロンザが所持）
88式グーン 操縦マニュアル	空飛ぶ下駄（88式グーン）の操縦マニュアル。下駄を操縦するためには運転スキルとこのマニュアルが必要。（撃墜されたポーンのコクピットより）（ハンスが所持）
会話ログ	ウルフとガナルドリア公爵との悪事の証拠となる通信会話ログ。メイフィリアに提出済。（ポーンのコクピット内）
20点魔唱石	20点の魔唱石。アクシズで補給物資として貰った。（セフィが二つ、ハンスが一つを所持）
近代化改修済ポーン	運動性が5まで上がったポーン。ジェネレーターもレプラグーンのものに換装済み。レプラグーン用ハイパーメガランチャー（威力70・10発）を装備している。新品のシールド付き。（チームソードもあるはず）（コレットが搭乗）
近代化改修済レプラグーン	運動性が6まで上がったレプラグーン。（ハンスが搭乗）
信号弾	（書き忘れていました。カガチとの合流時に使用済です）

鉄壁防御リスト（冒険前の知名度追加）

アリーヤ	（魔装術）	249
アロンザ	ホワイトダンス	261
コレット	プロテクションフロムアイギス	109
セフィ	プロテクションフロムアイギス	1792
ハンス	「見える」、ディメンションスリップ	1027
ミズキ	（危ない危ない危ない）（見なかったことにしよう）	1065
ルクレシア		1105

王城攻略情報まとめ

エントランスへの戻り方：→↓B・B・13（絶対に暗記すること）

光の窓：←↓→ A 2 2 3 注意：窓の方は絶対に見てはいけない。

暗号が解読できればもう少しいろいろわかりそうなんだが、とりあえずエントランスに戻れば食料などは補給できることが分かったので、荷物は減らしてもう一回アタックしてみよう。

1. 現在、立ち入りが許されているのは王城内の異界のみで、他の二つの異界については立ち入りが禁止されている。したがって攻略されているのは王城内の異界だけ。多分他の二つの異界に立ち入ると二度と戻ってこれない。

2. 王城内の異界はエントランスまでは現状、通常の様子を保っており、そこまでは危険はなさそう。

3. 王城内へ入るためにはエレベーターに乗る必要がある。このエレベーターは特別性で、本来は王城内の好きなフロアに移動できるポータル式のものだった。

4. エレベーターは通常のものと同じ、二つのレバーの方向と文字盤、そして数字キーで移動する。

5. うまく王弟（マゼンダ）殿下のいる部屋のコマンドを見つけることが出来れば王弟殿下を助けられるかもしれない。

6. ただし、どのフロアに王弟殿下がいるか分からないので、一応でも探索する必要がある。

7. 攻略ガチ勢の連中は大分奥の方まで攻略できているようだが、たまにエレベーターで会うことしかできない。

8. フロアのどこかに、別のフロアのコマンドが書かれている紙が落ちているらしい。あたりが出るまで探索は続く。

9. たまにエレベーターガールが居ることがあるらしい。

10. 【多分最重要】既にガチ勢の人々が入った階層には、その階で致命的になりそうな情報が壁などに掛かっている場合がある。読めれば致命的な危険を回避できる。但し暗号で書かれているので読むことができない。これは危険を知った中級以下の冒険者に攻略不可能を悟らせて帰らせる狙いがあるようだ。

ハックする人間によって、攻略する部屋の順番が違っている場合がある。そのため、ガチ勢が既に攻略した部屋には次の部屋に進むための（エレベータに入力する）コマンドなどの情報が暗号でどこかに書かれている。

いきなり未攻略の部屋に行き当たるリスクも有る。

異界攻略のためには暗号文書を読む人物が必要となる。そのため、マレーンの地下牢に囚われているクリムゾンアイを連れてくることで攻略ができそう。